

**30th  
ANNIVERSARY**

**日本塗装機械工業会 30周年記念誌**

## CEMA 21世紀ビジョン

1. **CEMA** は、塗装技術を通じて新しい価値を創造し、その活動をグローバルに展開します。
2. **CEMA** は、塗装技術を追求し、作業環境改善と地球環境の保全に尽力します。
3. **CEMA** および会員各社は、相互の信頼関係を深め、共生と共栄を自らの手で切り拓きます。



21世紀、人そして地球とともに歩み続けます。

CEMA 21世紀ビジョン	●	p 1- 2
巻頭言	●	p 3- 4
祝辞	●	p 5- 8
開かれた工業会	●	p 9-16
会員紹介	●	p17-33
CEMA年表	●	p34-42
CEMA紹介	●	p43-44
出荷統計	●	p45-46

## 巻頭言

### CEMAのグローバル化、 “和魂洋才”と“孤掌不鳴”

会長 小林 茂



日本塗装機械工業会（CEMA）が1976年の設立以来、30周年を無事に迎えられましたことを、会員の皆様や今まで絶大なご支援をお寄せくださった方々と一緒に心から喜びたいと思います。設立当時、日本の産業界がオイルショックや公害問題などの厳しい状況に直面していたとき、塗装機器や塗装設備業界をリードしていた先駆者の方々や関連メディアの方々がこの厳しい状況に怯むことなく心をひとつにして、日本の将来を信じ、日本の将来を築くべく本工業会を結成したことが30年後の現在の発展に結びついている事を考えますと、先駆者の方々や支援者の方々に心からの敬意と感謝を捧げたいと思います。

さて、30周年を迎えた今、ゴーイング・コンサーンこそ今後のCEMAの大きな使命だと思います。先駆者の意志を継いで発展を続けることが現在の私たちの責任であります。意志を継ぐということは、現在、私たちが置かれている状況や変化を正確に見据えて的確に実行することです。

そして私は、現在の状況、変化のキーワードはグローバル化であり、グローバル化への適切な対応のキーワードは異業種間の有機的統合、融合、コラボレーションだと思います。今までは、ユーザーの「塗ること」という仕様や要望に合わせて設計した塗装機器・設備を納入することでメーカーとユーザーが相互に発展することができました。しかしグローバル化が進むにつれて、単に「塗ること」だけでは世界との競争に勝つことが困難になり、如何に差別化して異種競争にもっていくかの時代に突入しました。「塗ること」という基本的な付加価値に加え、さらにイノベーションにより高度かつ多様な付加価値をユーザーや市場が求める時代が現在の塗装工業界であり、ポスト工業化社会で発展する秘訣です。しかも競争する相手は国内だけでは

なく技術の先進国を自負する欧米や追いつけ追い越せで進展著しい中国を始めとするBRICsです。いわゆるコスト、機能、スピード、新規性さらには新奇性、イノベーションなどのオールラウンドな国家としての競争力が求められています。このオールラウンドな競争力を確保するには、塗装機器、塗装装置というジャンル内での基盤構築と同時に異業種との融合が不可欠です。「塗ること」の付加価値は、モノの加工方法、表面処理プロセス、製造プロセスなどの改革に加えて、モノの本質である物質の科学および電気、電子工学的な制御プロセスの追求、顧客満足度、ニーズへのコミットメント、挑戦により技術革新が達成できると思われれます。幸いなことに日本はこれらの総合的な工学や科学の分野を構成するそれぞれの専門分野で世界に誇れる一流の技術と哲学を持っています。「和魂洋才」。これこそ私たちの先駆者が綿々と築いてきた財産です。「孤掌不鳴」のことわざのとおり、業界にとられず異業種同士がお互いに力を出し合い協力して相互的な発展を目指すことが日本産業界の真の発展につながるはずで

CEMAも参加企業や支援団体、関係団体の協力のもと新会員企業勧誘、シンポジウムでの新情報の受発信、充実した統計資料の公表、ユーザーとの協力関係、関係メディアとの関係強化など着実に発展しています。

これからのCEMAが異業種融合の輪（和）の中に入り発展していくには会員企業の努力は勿論ですが、機器メーカー、設備メーカー、材料メーカー、メディアの方々为一体となった協力活動が必要不可欠です。これからも、関係団体が一体となったコラボレーションにより、CEMAが継続発展していくことを確信し、30周年記念のご挨拶とさせていただきます。

## お寄せいただいた 祝 辞



## お祝いの言葉

社団法人 日本塗料工業会  
会長 小林正受



この度、日本塗装機械工業会が設立30周年を迎えられたこと、誠にめでたうございます。貴工業会は、昭和51年に発足され、塗装機械および塗装設備業界の発展を目的として、今日まで幅広く活動を展開され、我が国塗料、塗装産業の発展のみならず、他の産業の成長にも多大なる貢献を為されたことは衆知の事実であります。また、貴工業会が30周年を迎えられるに際し、『CEMA30周年記念誌』を刊行されますことは、貴工業会の輝かしい30年の歴史と我が国の塗装機械・設備技術のめざましい進歩や革

新についての理解を深める意味で誠に貴重なものであり、その発刊を心からお喜び申し上げます。現在、塗料・塗装産業においては、「防錆」「美粧」「特殊機能」といった塗料・塗装の基本的機能の向上に努めるとともに、地球環境保護を最重要テーマとして取り組んでおりますが、言うまでも無く、塗料は適切な方法で塗装されることにより塗膜として本来の機能を発揮いたします。つまり、貴工業会の信頼性の高い塗装機械や塗装設備によって、塗料産業の発展に多大な貢献をいたしてお

り、私ども日本塗料工業会にとって誠に心強い限りで、深く感謝しております。また、厳しい経済環境の下で、貴工業会をまとめ、発展へと導いてこられた歴代役員の皆様方、また関係各位のご努力に心から敬意を表します。最後になりましたが、日本塗装機械工業会がこれまで歩んで来られました、30年の貴重な経験を財産として、今後も多様化していくニーズに応え、将来を見通し、皆様ご一同が力を合わせ、一層の躍進を遂げられるようご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

## お祝いの言葉

社団法人 日本塗装工業会  
会長 河野玉吉



日本塗装機械工業会が設立30周年を迎えられ、「CEMA30周年記念誌」が発行されますことを心よりお慶び申し上げます。貴会は昭和51年8月に設立されて以来、塗装機械、設備の技術の向上に取組まれ、団体として今日の地位を築かれましたことに対してあらためて敬意を表します。さて、建設業界は、民間設備投資が増加しているものの、建設投資全体額は減少しており、その結果、供給過剰構造を背景とした価格競争が

激化し、厳しい経営環境下にあります。特に価格一辺倒の競争は、専門工事業者の重層下請構造に影響を与え、建設生産システムが破綻する恐れも生じております。こうした中、本会では「技術と経営に優れた専門工事業」を目指し、環境対応塗装技術の調査研究や省エネルギー技術の調査研究等、総合仕上技術の開発に努めているところであります。今後とも、貴団体の蓄積された研究開発力にご期待申し上げるととも

に、私どもの良きパートナーとしてご指導、ご支援賜りますようお願い申し上げます。この30周年を契機とされ、貴団体のますますのご発展と役員並びに会員各位の更なるご隆盛を祈念し、お祝いの言葉と致します。

## 祝 30周年—塗装機械工業会のこれからの期待する

日本塗装技術協会  
会長 今井八郎



日本塗装機械工業会が設立30周年を迎えられたことお慶び申し上げます。私ども日本塗装技術協会は1963年の創立以来本年で43年となりましたが、貴会のことに関しましては、当会初代会長の浅原照三先生より、時にお話をお聞かせしていただき、貴会初代岩田会長には当会の創立時より何かとご協力を賜り、当会の基礎づくりにご貢献をいただきました。又、2代松尾会長にも同様に一方ならぬご苦勞をおかけし、3代甘利会長にも大変お世話になったとお聞きしております。又、4代佐々木会長の時は塗装3団

体協議会を発足させ、協議のなかでの佐々木会長の、ご見識を大変参考とさせていただいたものです。当会は、塗料・塗装に係わる学術・技術の分野で斯界に貢献する団体であると認識いたしておりますが、貴会の会員各位には、当会・法人・個人会員として入会をしていただいたうえ、一部のかたには役員又は委員としてご活躍いただいておりますことも感謝にたえません。現在の産業はすべからず、環境負荷の問題、コンプライアンスの問題など企業が社会に対して果たすべき責務があり、塗装業界も責任の一部を負わねばならないことは自明の理でございます。

これからは当会は学術・技術の分野で頑張つて参りますが、それにもまして貴会が、設備・機器・機械と環境対応製品を基に社会に果たす役割はますます重要だと存じます。30年と簡単に言葉には出来ませんが、その道程は山あり谷ありだったと存じますが、係わる人々の英智が、その時その時を乗り越えてこられたと思います。30年を区切りとして本年よりは5代小林会長をリーダーとして、塗装業界発展のため、研鑽努力をされ、産業界の規範となられることと、貴会のますますのご発展を祈念いたしております。

## お祝いの言葉

日本工業塗装協同組合連合会  
会長 山崎 秀雄



今年、日本塗装機械工業会が三十周年を迎えるにあたり、日本工業塗装協同組合として心よりお祝い申し上げます。

貴工業会は昭和五十一年の創立と聞いております。長き三十年の間には塗装業界にも変化がありましたが貴工業会のみなさんにお力添えを頂き、大きな進歩を遂げてまいりました。近年における地球環境への関心の高まりは国際化によるボーダレス現象とともに私共塗装業界に浸透し

ております。業界に問われる産業法制への改善を図るべく時、貴工業会には益々のご指導とご協力を期待してやみません。産業の空洞化問題、産業廃棄物問題、そして環境問題、特にVOC削減とこれから進む道は厳しさが増してまいります。人と環境にやさしい工場としての塗装設備機械の開発にご努力をいただき、提供してくれることを大いに期待しております。

設立三十周年を契機として貴工業

会が今後益々発展されますことをお祈り申し上げます、お祝いの言葉とさせていただきます。

## 創立30周年祝辞

日本パウダーコーティング協同組合  
理事長 由井 克巳



この度日本塗装機械工業会が創立30周年を迎えられたことを心からお慶び申し上げます。

思い起こせば30年前、日本は電着塗装、静電塗装、プレコート塗装等が塗装機や塗料の進歩と相まって大きく変貌を始めた時でありました。それ以後10数年は需要の拡大に支えられ塗料・塗装の分野は順調に拡大が続きましたがバブルの崩壊とそれに続く生産の海外移転により業界は中々トンネルから脱出出来ない状況が続いてきました。

しかし貴工業会が創立30周年を迎えるのに合わせるように、世の中

の潮目が変わって来ているように感じられます。変化のキーワードは「環境との調和」です。今まで塗装産業は諸外国に比べ緩い環境規制の中で性能、外観、コスト及び効率を追求してきましたがこれからは改正大気汚染防止法の施行と業界の自主規制でVOC排出削減が必達目標となりました。一方で世界的に歩調を合わせた塗料や溶剤に対する有害物表示法（GHS）が今年末か来年には実施される見通しとなり、材料面からの環境規制が強まると考えられます。このような環境の基では業界が顧客に対し積極的に働きかけ対応

策を提案して始めて新たなビジネスチャンスを掴むことが出来ると信じております。

私ども粉体塗装を推進する立場としても貴工業会と協調しながら「環境との調和」を視点においた塗料や塗装設備の推進活動が出来ることを期待して止みません。

日本塗装機械工業会創立30周年にあたり今後益々貴工業会が発展されるよう祈念しお祝いの言葉と致します。

## 設立とその後

株式会社 塗料報知新聞社  
取締役主幹 星野 昇



設立30周年おめでとうございます。ここからお慶び申し上げます。発足当時と何が変わったか考えると、先ず経営者のポリシーが大きく変化したこと。そしてグローバル化の進展。技術の進歩が挙げられます。

発足当時は世界的なインフレと国内ではオイルショック後の狂乱物価で、不況が一段と深刻さを加えた時代でした。塗料産業は製、販、装とも全国組織があり、社会的評価を得ていました。塗膜造りに欠かせない塗装機器、設備業界は横の連絡がなく、常に激しい販売競争が繰り返されていました。組織化の必要性は承知だが、それより商売優先、一役買う人がいませんでした。本紙は第三者の立場から設立を手伝い、2年間事務局を担当しました。他社のことは知りたいが、自社の手の内は見せたくない、出荷統計では事務局の強権を発動したことを記憶しています。

今日同業他社に気をとられている時代ではなく、オープンな経営が当たり前になりました。また、グローバル化の進展は外資系企業の国内での活躍、国産企業はアジアを中心に海外での活躍に拍車がかかりました。背景にあるものは世界に通用する技術力の進歩です。小林茂会長は「技術革新により、先端技術を先取りした、機械、設備をユーザーへ提供することが使命だ」と会員に檄を飛ばしています。

30周年の歩みを振り返ると、歴代会長の功績の大き

さが目に映ります。昭和51年岩田一也会長は、国産機器メーカーの草分けとして、リーダー役を果たし、組織の基礎固めに努力された。松尾一郎会長は、大阪から東京へお願いする時、名古屋、東京の関係者へ一緒に訪問頂きました。親分肌でファンも多く、改革のスピードをあげました。三代目甘利祐三会長は、早川輝一郎長を事務局専属に、会運営に特別の配慮を重ねました。中部で開く総会の度に趣向を凝らし会の団結と発展に尽力されました。会長会社が事務局を持ちまわりになり、岩田会長は高崎充氏、松尾会長は井本道親氏、柴田凱功氏、甘利会長は早川輝一氏が事務局長を担当し、陰から工業会を支え功績は大であります。甘利会長から会長引継ぎの時、昔のよしみで事務局の依頼を受けたが、日本塗装機械工業会を東京へお願いした経緯があり辞退しました。佐々木栄治会長は専任事務局と事務処理のIT化を目指しました。事務局はアウトソーシングすることになり、会長会社持ち回りと違った評価になりました。

今後は、市場のボーダレス化への対応は勿論のこと、先進的な技術開発をはじめとする、企業力強化が明日を拓くポイントになります。昨年、小林会長が誕生、国際派として新時代にふさわしい運営を目指しています。会長のリーダーシップで、各企業の繁栄とCEMAの更なる発展に期待します。

開かれた工業会

技術シンポジウムの開催



第一回 技術シンポジウム

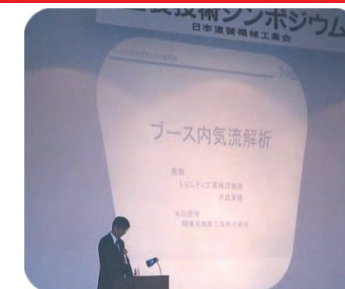
20th ANNIVERSARY

# SYMPOSIUM

技術シンポジウム・塗装に係わる先端技術セミナー

ユーザーから見た塗装課題の解決に挑戦!

熱のこもった  
技術講演のひとコマ



聴講者の熱気で満ちる  
会場風景



‘97年3月5日・6日の両日に亘って、設立20周年記念「技術シンポジウム」をインテックス大阪国際会議場で開催した。設立20周年の記念行事の一環として、運営企画委員会が中心となり、シンポジウム開催の企画立案に当り、技術部会が運営の実務を担った。CEMAとしては、初めての試みであったため、開催地や会場の選定、テーマの選定、料金の設定、集客やP.R方法など、度々会議を重ねた。技術情報の発信であれば、CEMA会員だけでなく、実際に機械・装置を使用しているユーザーの蓄積された技術情報の開示があって、初めて塗装関連業界の技術の向上に貢献できるものと判断して「メーカーとユーザー」が一体となって講演することを決定した。このシンポジウムには、バブル経済の崩壊による景気低迷の状況下に拘らず、2日間で454名と言う多くの参加者で会場は活気に満ちたものとなった。この成功を契機にCEMAの使命として、技術情報の発信を継続的に実行していく気運となった。

editorship

塗装技術 (抜粋) 1997年4月号

いつか書いたように、甘利祐三会長のリーダーシップには、20周年記念に寄せられた「この声を志として」の信念が根幹にある。そして、この信念を根幹に「総意に基づく、開かれたCEMA」に心を砕くのである。

業界団体が一丸となって、コミュニケーションと知恵の輪をひろげて行くことが、名実共に21世紀への展望をひらくカギになるのである。2日間を通じて400名の予定が454名という動員力があって、CEMAの実力と存在を誇示することで20周年記念を有終の美で飾った。

それにしても、聴講していて強く感じ取られたことは、塗装という仕事の難しさ、面白さである。この仕事はけっこう奥の深い仕事だという認識である。正に、この視点の認識こそが「業界の発展に貢献できるCEMA」のレーゾンデートルであることを確信した。

プログラム

日本工業新聞主催の  
シンポジウム併設展示会



	3月5日(水)	3月6日(木)
11:00~11:10	●ご挨拶 日本塗装機械工業会 会長 甘利祐三	10:30~11:15 ●「ブース内気流解析とその実用例」 トリニティ工業株式会社
11:10~12:00	●基調講演Ⅰ「環境保全のための塗料の役割」 ㈱日本塗料工業会 常務理事 増田利平	11:15~12:00 ●「塗料スラッジの連続回収システム」 パーカーエンジニアリング株式会社
12:00~13:00	●休憩	12:00~13:00 ●休憩
13:00~13:45	●「多色対応型静電粉体システムとその実用例」 日本パーカーライジング株式会社	13:00~14:00 ●基調講演Ⅱ「臭気問題とその対策」 ㈱臭気対策研究会 専務理事 石黒辰吉
13:45~14:30	●「スチールデスクの電着・粉体塗装ラインとコンピュータ管理システム」 コクヨ株式会社(アネスト岩田㈱親属)	14:00~14:45 ●「水性塗装の現状と展望」 日本ペイントプラント・エンジニアリング株式会社
14:30~15:15	●「低価格色替ブースとトリボディスク」 ノードソン株式会社	14:45~15:00 ●休憩
15:15~15:30	●休憩	15:00~15:45 ●「環境ISO14001認証取得に対するわが社の取り組み」 リンナイ株式会社(タクボエンジニアリング㈱親属)
15:30~16:15	●「溶剤、電着、粉体と1/4世紀を塗装に携わっての今日」 松下電器産業株式会社(松尾産業㈱親属)	15:45~16:45 ●塗着効率向上を目指して「低圧スプレーにおける高塗着確化技術」 アネスト岩田株式会社 「エアージェットにおける塗着効率向上と高品位塗装」 旭サテック株式会社
16:15~16:45	●質疑応答と全体討議	

第二回 技術シンポジウム

**技術シンポジウム '99**  
塗装に係わる先端技術セミナー — 塗装の環境を考える

熱心に聴講する参加者

メーカーとユーザーの連携による講演風景

挨拶する甘利会長

第2回塗装技術シンポジウムを5月27日・28日の両日に亘って「塗装の環境を考える」をテーマに、東京ビックサイト・東京ファッションビルで開催した。初日は、朝から強風に見舞われ、ゆりかもめや水上バスがストップし、レインボーブリッジも通行止めとなり、バス・タクシーは交通規制で渋滞の波にのまれ、予期せぬアクシデントで30分遅れの開催となった。

甘利会長(写真)は、挨拶の劈頭で「当工業会20周年を契機として制定した”CEMA21世紀ビジョン”の核である地球環境の保全をテーマとしたこと、さらにビジョンを具現化するために中期事業計画を策定し、そのうちの実施項目である”技術シンポジウムの開催”に踏み切ったことは、単にCEMAの活力を

示すのみならず、関係業界の活性化に少なからず貢献するものと自負するところであります」と述べ、CEMA21世紀ビジョンと中期計画の実行の一環であることを強調された。

初日の悪天候、しかも未だ景気の見通しが見えない状況下で、定員オーバーの440名と言う多くの参加者を得て、大盛況であった。通常、先端の塗装技術はシークレットで情報開示をしない松下電器産業、本田技研工業、三洋電機など、一流ユーザーの講演があつて”メーカーとユーザー”が一体となった情報発信・交流の場となったことなど、業界紙誌が大見出しで報道した。

日本塗装工業会をはじめ塗装関連団体からのお祝い



第三回 技術シンポジウム

**技術シンポジウム '01**  
地球環境に対応する塗装技術  
ISO14001取得と継続の技術

挨拶する佐々木会長

会場となった日本ペイント東京センタービル

講演風景

昼の休憩を利用した各社の展示コーナーには、情報を求める聴講者の関心が集った。

今回は佐々木会長になって初めてのシンポジウムとして、会場を日本ペイントのセンタービルをお借りすることになった。会場の発表設備、聴講雰囲気とも素晴らしく、また品川の地の利もあり、予定聴講者数をはるかにオーバーして制限する事態となった。テーマも「ISO14001の認証取得」を中心にした環境問題で時流に

適っていたこともあり、自動車、弱電を始めとして幅広い業界からの講演を頂けた。また昼食は弁当を用意するなど日本ペイント殿の協力とCEMA技術部会のボランティア協力も成功の要因であった。

プログラム

5月23日(水)		5月24日(木)	
10:00~10:10	・ご挨拶 日本塗装機械工業会 会長 佐々木 栄治	10:00~10:10	・ご挨拶 日本塗装機械工業会 副会長 重見 多一
10:10~10:50	・21世紀の水系静電塗装 ランズバーグ・インダストリー㈱	10:10~11:00	・CSE方式によるクリヤー粉体塗装システム 日本バーカライジング㈱
10:50~11:30	・粉体・水性複合塗料による環境対応、多色対応 ココヨ㈱	11:00~11:50	・自動車の水性塗料フラッシュオフ ㈱大気社
11:30~12:10	・多色水性リサイクルシステム 日東工業㈱	11:50~12:50	・昼食 休憩「プレゼンテーション参加タイム」
12:10~13:10	・昼食 休憩「プレゼンテーション参加タイム」	12:50~13:40	・基調講演 産業廃棄物の廃液等のリサイクル ㈱サニックス
13:10~13:50	・基調講演「塗料の環境対応(LCAとPRTR)」 日本ペイント㈱	13:40~14:20	・無排水無溶剤の塗料工場 江戸崎共栄㈱
13:50~14:30	・研究発表「ISO14001を見据えた塗料革新」 塗料・塗装機械協議会	14:20~15:00	・塗料工場での環境対策実施例 大日本電機㈱
14:30~15:10	・自動車水性塗料技術の最新動向 日本油脂BASF㈱	15:00~15:10	・コーヒーブレイク
15:10~15:20	・コーヒーブレイク	15:10~15:50	・微生物による塗料スラッジ処理システム ㈱小松製作所
15:20~16:00	・環境対応の樹脂塗料システム ムトー精工㈱	15:50~16:30	・塗料のデジタル化 日本ペイント㈱
16:00~16:40	・特殊スプレーガンによる塗料使用量の低減 フナムコ㈱	16:30~17:00	「プレゼンテーション参加タイム」
16:40~17:00	「プレゼンテーション参加タイム」		

第四回 技術シンポジウム



テーマ：生き残りをかける塗装技術。

大幅コストダウンを目指す塗装システム  
第四回 技術シンポジウム

C E M A



受付の様子



里見副会長の挨拶



講演風景



本年は日本経済が低迷から脱却できず、各社とも厳しいリストラに直面し特に設備業界、塗装業界は生き残りをかけるのに必死の状態であった。その中で「生き残りをかける塗装技術」のテーマの下に、国内外の情報を集約して情報提供するシンポジウムであった。

今回は初めて中国からの情報として「中国ビジネス」の講演を取り入れた。時期折しもサーズ問題で中国との

往來が制限される中、木下国際部長の苦勞により実現できた。また、国内の塗装業として生き残りをかけて創意工夫されている数社、製造メーカーとして塗装の合理化、コストダウンへ挑戦している数社の事例等、C E M A シンポジウムならではの現実感溢れる内容であった。

プログラム

6月26日 木曜日	6月27日 金曜日
10:00-11:00 ●粉体塗装技術を応用した粉末冶金成形技術 JFEスチール株式会社 尾崎 由紀子	10:00-11:00 ●利益創出の企業システムづくり 株式会社トップ 高橋 正
11:00-12:00 ●筐体塗装ラインの生産能力向上と環境負荷軽減 長崎電機テクニカ株式会社 島崎 達也	11:00-12:00 ●3ウェットオン塗装システム マツダ株式会社 小笠原 敏文
12:00-13:00 昼食	12:00-13:00 昼食
13:00-14:30 ●中国における塗装ビジネスの現状 インターコンチネンタル連合会長 ジェンセン(南京)テクノロジーエンジニアリングカンパニー 会長 Mr. Robert E. Chiu	13:00-14:30 ●最新の水性塗装技術 日本塗装機械工業会 ランズバーグインダストリー株式会社 ノードソン株式会社
14:30-15:30 ●情報家電と粉体塗装 日本ペイント株式会社 川辺 統也	14:30-15:30 ●工業塗装での課題と対策 日本工業塗装協同組合連合会 株式会社岡田塗装所 岡田 勇司
15:30-16:30 ●最近の二液塗装機について 旭サナック株式会社 林 信之	15:30-16:30 ●スピンドル塗装における塗料削減方法 日本バーカライジング株式会社 森田 忠夫
16:30-17:30 ●新乾燥方式による塗装の合理化 株式会社桂精機製作所 赤松 賢一	16:30-17:30 ●小物ワークの塗料を大幅に削減する新塗装方法 アネスト岩田株式会社 白岩 充弘

第五回 技術シンポジウム



第五回 技術シンポジウム  
The fifth time of CEMA sponsoring technological symposium

生き残りをかける塗装技術 Part.2  
VOC規制とその対策

生き残りをかける塗装技術の第2弾として、VOCの法規制が進められる中での「対策」のシンポジウムとして申込者が殺到した。CEMAとして具体的な設備対策、塗料転換対策の情報を提供した。今回は法規制の関係で経済産業省の福原係長に基調講演をお願いした。

本シンポジウムよりCEMAの組織として「シンポジウム実行委員会」が里見委員長の下に発足し、毎年恒例としてのシンポジウム開催がスタートした。また、過去4回とも2日間開催であったが、毎年のため原則1日開催とした。



小林会長の挨拶



VOC規制には高い関心が集まり、  
受講者の真剣な姿勢が伺えた



基調講演の様子

時間	プログラム
9:30~10:00	受付開始
第一部	
10:10~10:30	ご挨拶 【VOC規制の動向】 経済産業省製造産業局化学課 福原 課長補佐
10:30~11:30	研究発表 【VOC規制の大胆予測と対策のシミュレーション】 日本塗装機械工業会 技術部会 塗装業界で最も関心の深い、塗装ブース、乾燥炉での規制はどうなるのかを数値予測し、 その場合の対策の設備費用とランニングコストを各業種のラインでシミュレーションを実施する
	テーマ別技術セッション
11:30~12:00	1. 最新塗装システム技術によるVOC対策 最新ロボットシステムによる塗装技術 タクボエンジニアリング(株)
第二部	
13:00~15:00	2. 粉体塗装化の決め手となる塗装機器の新技術と事例紹介 粉体化の課題と対策 画期的な粉体供給方式 短時間色替えの新開発技術 革新的粉体塗装システム ランズバーグインダストリー(株) アネスト岩田(株) 日本バーカライジング(株) ノードソン(株)
15:15~16:15	3. 水性塗装導入の課題に挑戦する塗装機器の新技術 絶縁装置不要の水性静電ハンドガン 新しい帯電方式による水性対応静電ガン アネスト岩田(株) 旭サナック(株)
16:15~16:45	4. 【VOC処理装置】の実用的な方式、装置の紹介 最も安価な直接燃焼方式 (株)桂精機製作所
16:45~17:00	質疑応答





熱心に質問する受講者

第4回以来、「生き残りをかける塗装技術」の第3弾として、大気汚染防止法が改正された直後にVOC規制へどう対処するかを、経済産業省、東京都環境局などを交えて、パネルディスカッションを取り入れ聴講者を交えて真剣に討議した。塗料・塗装業界の直面する課題のテーマであり、満員の聴講者はもとよりホームページに掲載した講演内容も好評を博した。  
 なお、この機会を緒として東京都のVOC対策のワーキンググループにCEMAとして参画した。



パネル達との真剣な討議の様子



我が国のVOC排出量をグラフで説明

プログラム	
9:30~10:00	受付開始
<b>第1部</b>	
10:00~10:30	ご挨拶 「VOC削減の動向と産業界への期待」 経済産業省製造産業局化学課 予定
10:30~12:00	研究発表 「VOC法規制の具体的影響と自主取り組みの概要」 今回の法規制の対象となる塗料・乾燥炉の業界別対応の実情の紹介と規制対象外の対応の概要を実ラインに即して発表
12:00~13:00	昼食
<b>第2部</b>	
13:00~14:40	事例発表 「現状VOC削減に取り組み成果を残している塗装ラインでの各種ノウハウの紹介」 旭サナック 株式会社 自動車ラインでのVOC削減方法の紹介とその手法を工業ラインへの応用への提案 アネスト岩田 株式会社 溶剤塗料のラインを粉体に転換した実例による課題、問題点とその対策
14:40~14:50	休憩
14:50~16:45	パネルディスカッション 「VOC削減への自主取り組みとは」 "VOC削減は法規制1割、自主規制2割と自主規制に重点が置かれた法により実施に移るがその具体的な方法などは全く白紙の状態であり、産業界からはその方向性、指針などが強く望まれている。ここで、VOCの先端を担う各分野の専門家による徹底討論により具体的な提案を行う。" パネラー 行政代表(東京都予定) 塗料メーカー代表 塗装設備メーカー代表 塗装ライン担当代表
16:45~17:00	質疑応答

## 回顧談

### 工業会に思う

C E M A 前会長  
 タクボエンジニアリング株式会社  
 代表取締役 佐々木 栄治



日本塗装機械工業会は、たくさんの方々のご努力、ご協力により、ここにめでたく30周年を迎えることができましたことをご同慶の至りに存じます。

会長在任中は会員の皆様をはじめ、関連諸団体の方々にとたくさんのご支援を賜りありがたく存じます。ここに改めてお礼申し上げる次第です。

思えば、3代目甘利会長の退任に当たり、2000年6月の総会において、4代目会長にご推挙いただきました。当時は工業会発足の岩田会長・松尾会長・甘利会長と、皆さん長期に渡り工業会運営に尽力され、会社においても本当の会長職の方々ばかりでした。従って4代目の会長を決めるに当たり、本来ですと理事の互選で会長を決めるのが慣わしでしたが、互選が難航した為、検討の結果選挙で決める事になり、初めて会員による会長選挙がおこなわれました。

当時を振り返りますと、多くの改革を目指し大変希望に燃えていたように記憶いたしております。

従来は会長会社が事務局を兼任する形で会運営は行われていました。会長会社が事務局経費の大半を負担していましたが、今後は会の経費で全て賄う必要性があり、コストの掛からない会運営をしなくてはと考えておりました。

私の会社は小さな会社ですので、とても社内で事務局をお受けする事は出来ず、前会長のご尽力により広信社さんにご協力を仰ぎ、初めて外部に事務局を開設する事ができました。

私は、工業会運営の基本はユーザーに軸足を置くことが重要であると感じ、また、コストの掛からない会運営が必要だという認識でスタートいたしました。

それにはまずホームページの開設・出荷統計の電子化・総会のCD化・メールによる情報連絡等を中心としたスリムな会運営が必要だと思い、早速ホームページの開設に取り掛かり、会員の皆さんの中からプロジェクト

チームを作り、スタートしました。

ところが当時は会員企業の温度差がかなりあり、なかなか進まず会運営の難しさを痛感しました。出来上がるまで、チームの皆さんが大変ご苦労なされた事が思い出されます。

出荷統計の電子化についても、従来は第三者にお願いする方法で非常に面倒な作業でした。これを電子化することにより会員企業がリアルタイムで出荷統計の確認が出来ないか検討に入り、その実現化は各企業の社内集計等の違いから難航しました。

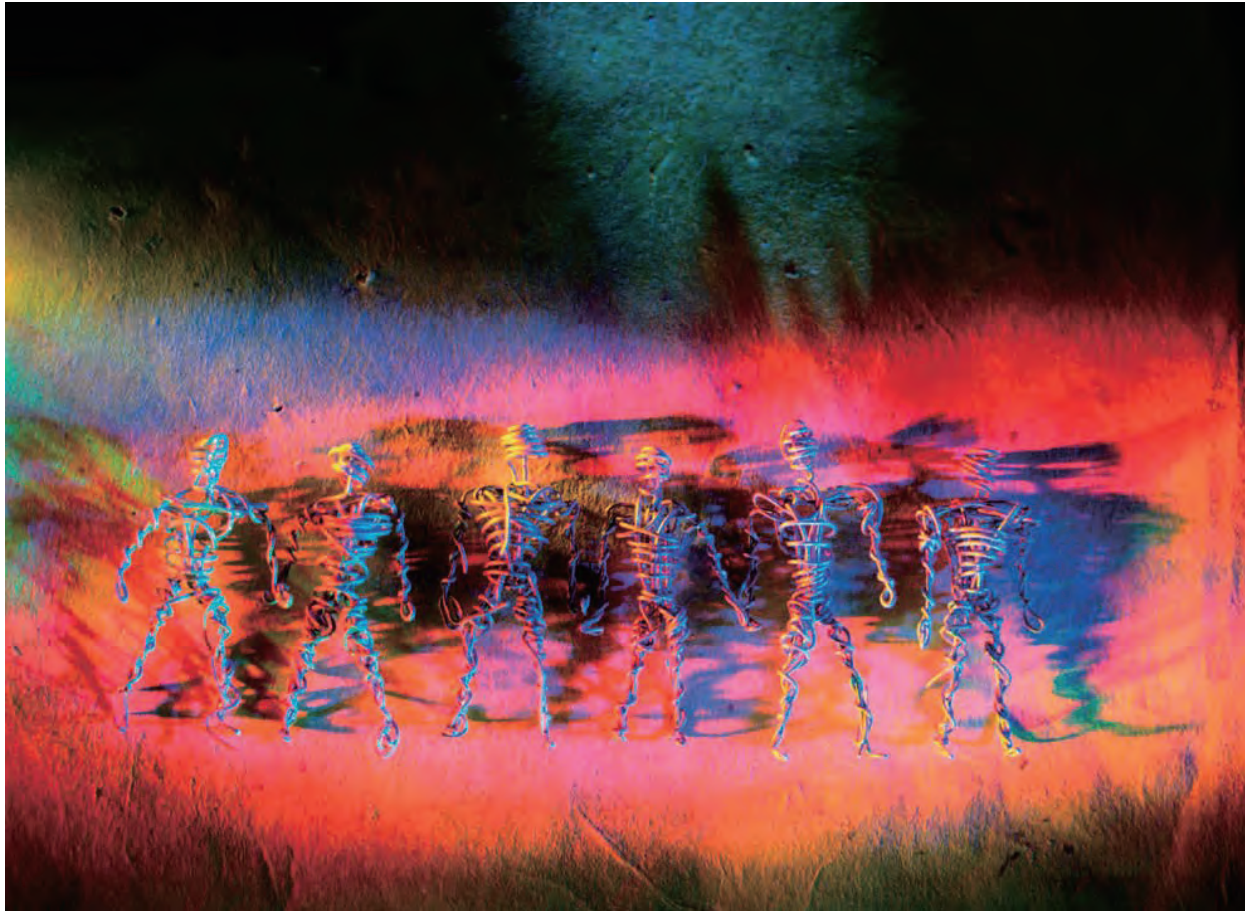
また、総会においてもCD-ROM化により手ぶら総会が出来ないか検討し、毎回製作している冊子を廃止して経費の節約を行う事を推し進め、このときもいろいろ難しい問題もありましたが会員企業の皆さんのご協力によりスムーズに移行でき大変感動いたしました。

当時の景気もあまり良くなく会員企業の皆さんも、日常業務に大変お忙しい時期にもかかわらず時間の多くを割いていただき一応の基礎的なシステムは出来上がり、次期小林会長に引き継ぐことが出来たことを大変嬉しく思っています。

会長期間を通して思う事は、工業会としてユーザー・会員の方々にいろいろな情報を発信していきかけたところですが、限られた会員で運営を行っている為、あまり多くの作業が出来ないのが現状でありました。従って、出来る限り重点課題を絞り、ホームページ等を強化して限られた事を着実に実行することが賢明であると感じております。

小林会長に大いに期待するとともに、微力ながら私も塗装業界、当会の発展の為、努力をする所存でございます。当工業会が世界にも通用する会へと発展していくことをご祈念いたしまして、30周年のお祝いの言葉とさせていただきます。

## 会員紹介



### 【CEMA会員】

旭サナック株式会社  
 アネスト岩田株式会社  
 アンデックス株式会社  
 ABB株式会社  
 オーウェル株式会社  
 株式会社桂精機製作所  
 株式会社カンペプラントエンジニアリング  
 株式会社ケミコート  
 グラコ株式会社  
 昭和塗装機株式会社  
 精和産業株式会社  
 株式会社大気社  
 大日本塗料株式会社（賛助会員）  
 タクボエンジニアリング株式会社  
 株式会社椿本チェーン（賛助会員）  
 デュル・ジャパン株式会社

東和酵素株式会社（賛助会員）  
 株式会社常盤電機  
 日本パーカラライジング株式会社  
 日本ペイントプラント・エンジニアリング株式会社  
 日本ワグナー・スプレーテック株式会社  
 ノードソン株式会社  
 パーカーエンジニアリング株式会社  
 白電工熱株式会社  
 松尾産業株式会社（賛助会員）  
 三菱重工業株式会社（賛助会員）  
 村上工業株式会社  
 株式会社明治機械製作所  
 ランズバーグ・インダストリー株式会社  
 菱和産業株式会社  
 ロックペイント株式会社（賛助会員）  
 株式会社ヲサメ工業

### 旭サナック株式会社

代表者名 : 社長 甘利 昌彦  
 住所 : 〒488-8688 愛知県尾張旭市旭前町 5050

TEL 0561-53-1213 FAX 0561-54-8847  
 URL <http://www.sunac.co.jp>

#### 【会社プロフィール】

- ◆ 設立：昭和17年7月17日
- ◆ 経営基本方針  
 “技術創造企業として国際社会に貢献する”
- 1) 物作りを通して、顧客に役立つ新しい価値を創造する。
- 2) 個人の活力と固有技術を尊重し、相互信頼の組織とする。
- 3) 常に社員と共に成長発展する。
- ◆ 受賞歴（塗装関係）
  - \* 1996年 技術賞（日本塗装技術協会）
  - \* 1997年 新機械開発賞（財機械振興協会）
  - \* 2004年 特別賞（日本塗装技術協会）
  - \* 2006年 会長賞（財機械振興協会）

#### 【事業紹介】

- 1) 塗装機器及び塗装設備の設計、製造、販売、施工
- 2) 自動塗装装置及び塗装システムの設計、製造、施工
- ◆ 得意分野及び優位点  
 静電ハンドガン分野においては業界に先駆けた高い塗着効率と優れた仕上がりを両立した静電ハンドガンを開発上市したことにより、自動車ボディ関連をはじめ、一般工業分野においても高評価を得ており、同分野では現在圧倒的なシェアを占める。

#### 【製品名】

間接帯電式エア静電ハンドガン HB3000 シリーズ

#### ■特長

- ◆ 高電圧絶縁対策が不要で、且つ静電効果による高い塗着効率を実現
- ◆ 一般的な外部帯電方式に比べ、優れた操作性と安全性を確保しています。
- ◆ 専用の高性能ノズルにより、高い塗着効率と優れた微粒化を両立できます。

#### ■導入のメリット

- ◆ 水性塗料対応によるVOC排出の大幅な削減
- ◆ 高塗着効率と塗料使用量の削減と作業時間短縮によるコスト削減
- ◆ 優れた微粒化による、高品質塗装の実現

#### ■関連事項

塗装機械分野では、ロボット・レシプロレータを主体とした静電自動塗装装置、粉体静電塗装装置及び2液対応型装置等環境保全に注力した自動塗装システムの開発・製作に取り組んでおり、それらのアフターフォローのため、サービス活動も積極的に展開しています。

### アネスト岩田株式会社

代表者名 : 社長 森本 潔  
 住所 : 〒223-8501 横浜市港北区新吉田町 3176

TEL 045-591-1118 FAX 045-591-1137  
 URL <http://www.anest-iwata.co.jp/>

#### 【会社プロフィール】

1926年（大正15年）5月創業で80周年になる。全社の行動基準として「お客様第一主義」を掲げ、全ての事業活動を社是の「誠心」をもって推進している。1996年に ISO14001 の認証を受け、2004年には国内3子会社を含め ISO14001 の統合認証を受けた。1996年に Active & Newest Technology をモットーに開発企業を目指すべく現在の社名に変更を行った。これを機に塗装機事業は「塗装と塗布の総合コンサルテーション」を目指し活動をしている。

#### 【事業紹介】

圧縮機事業はエアコンプレッサを真空事業は真空ポンプを主体に展開、いずれもオイルフリー製品を特徴に半導体、食品加工、医療関連分野などに広く展開している。塗装機事業は霧化と流体供給・制御のコア技術をベースに種々の塗料や被塗物に対応できるアプリケーションを備え、塗装工程の自動化、効率化、低公害化を推進している。塗装にとらわれず食品、包装、生産・組立の分野にも塗布技術を展開中である。

#### 【製品名】

樹脂部品ツインスピンドルロボット塗装システム

#### ■特長

塗装ロボットによるツインスピンドル方式の塗装システムに加え、ワークに応じた最適塗装機器、最適塗装設備による高効率塗装システムで高生産性と不良率低減、塗料使用量の大幅削減を実現し環境保全に大きく貢献いたします。

#### ■導入により期待されるメリット

- ① ツインスピンドル塗装による高効率、高精密塗装で平置き網塗り塗装に比べ約50%以上の生産性向上
  - ② 移載ロボットを使用し無人化搬送システムによる歩留まり率向上
  - ③ 塗装室内の最適なエアバランスとクリーンな空調による塗装品質の安定化
- 塗装品質にマッチした最適塗装機器による必要最小限の塗料使用量で高品質塗装に対応し、平置き編み塗り塗装に比べ約50%以上の塗料使用量削減。

## アンデックス株式会社

代表者名 : 社長 田邊 耕造  
住所 : 〒722-0051 尾道市東尾道 15-29

TEL 0848-46-3711 FAX 0848-47-1211  
URL <http://www.andex.co.jp>

### 【会社プロフィール】

当社は、自動車用塗装ブースの製造・販売で30年以上の歴史を持ち、今やNo. 1のシェアを誇っています。それを支えているのが、現状に満足することなく、常に新しいことにチャレンジしていくスピリットです。今後も、塗装ブースや乾燥装置、換気装置の専門メーカーとしてのノウハウを駆使し、さらなる新製品開発へと邁進してまいります。

### 【事業紹介】

自動車用塗装設備・乾燥装置のメーカーとして、国内でトップシェアを確保し、主に自動車ディーラー・板金塗装工場に向けて、積極的に営業活動を展開しています。また、あらゆる工業用塗装設備の分野でも納入先より高い評価をいただいております。今後ますます重要になってくる人間優先の作業環境作りに対して、今日までに蓄積したノウハウを駆使してお応えすべく努力を続けております。

アンデックスは、全国に6ヶ所の営業所(東京、大阪、名古屋、福岡、仙台、尾道)をもち、お客様の、より身近なところでお役に立ちたいと、努力を続けております。

### 【製品名】

MULTI AIR CONDITIONING MACHINE  
マイティージェット

#### ■特長

“水性塗料での除湿乾燥”“塗装ブースでのスポット冷房”“剤系塗料の初期乾燥”と1台3役のマルチエアコンです。どのような塗装ブースにも設置可能です。水性塗料、溶剤系塗料のどちらの乾燥にも対応しています。吹出風量4m<sup>3</sup>/minの1口タイプと8m<sup>3</sup>/minの2口タイプがあります。ブース内への設置方式としてフリースタンド、セレクトスタンド、フリーアーム方式を選択出来ます。また、作業者の冷房や暖房としての利用も可能です。

#### ■導入により期待されるメリット

水性塗料のフラッシュオフ時間が大幅に短縮出来ます。マイティージェット導入前は2Kフラッシュ時間が72分掛かっていたのが、マイティージェット除湿モードで10分に短縮できたとお客様からデータを頂きました。

## ABB株式会社

代表者名 : 社長 鈴木 勇  
住所 : 〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町 26-1

TEL 03-5784-6000 FAX 03-5784-6274  
URL <http://www.abb.co.jp>

### 【会社プロフィール】

ABBは世界100カ国に10万5000人のネットワークを擁する電力技術とオートメーション技術のリーディングカンパニーです。環境負荷を最低限に抑えながら業務効率を最適化するソリューションの数々を産業界と公益事業のお客様にご提供しています。塗装機器の分野においては、世界で初めて静電塗装機および電動式塗装ロボットの実用化に成功したパイオニアとして、最先端の塗装ソリューションを国内・海外のお客様に供給しています。

### 【事業紹介】

ABBではVOC排出など環境汚染による自然破壊や資源の枯渇対策として、良好な塗装品質の確保だけでなく、自然に優しい塗装機器や塗装技術の研究を積み重ね、水性塗料対応の高塗着効率型塗装機や色替え時の塗料や洗浄シンナロスを削減し塗料使用量を削減する為の塗装方法や塗装技術をリリースし続けています。また、ABBは、塗装機器と塗装ロボットを統合したシンプルでパワフルなシステムをお客様に提供しています。

### 【製品名】

ROBOBEL951、RB1000 シリーズベル型回転式静電塗装機

#### ■特長

これらの塗装機は、塗装時のスプレーパターン幅を100mmから500mmの間でコントロールすることが可能です。また、高レスポンスエアモータによりベルカップ回転数を変更した場合の応答性が格段に向上しました。特に、RB1000 シリーズは高レスポンス・ハイパワーエアモータの搭載により最大吐出量1000cc/minまでの吐出能力があります。このシリーズは溶剤・水性塗料の双方が塗装可能なモデルもラインナップされています。これらの特性によりロボット台数の削減、ブース長の削減(初期設備投資額の削減)が図れます。

#### ■導入により期待されるメリット

塗装中に塗装部位の塗装面積に合わせ塗装中にスプレーパターンをコントロールしてオーバースプレーを極力抑える事により、実塗装効率を向上させ、塗料使用量を20～30%削減することが可能です(実績)。ベルカップ径は、塗装時のスプレーパターン幅の使用範囲により4種類のベルカップより選択できます。また、本シリーズには色替え時の廃棄塗料・洗浄シンナーの使用量がゼロに近い塗装機が含まれています。

## オーウェル株式会社

代表者名 : 社長 宮本 文義  
住所 : 本社〒555-0012 大阪市西淀川区御幣島 5-13-9

TEL 06-6473-0138 FAX 06-6476-2200  
URL <http://www.owell.co.jp>

### 【会社プロフィール】

当社は、昭和18年の創業以来、「産業用塗料」と「塗装装置」を提供することを中心にお客様のモノ作りをお手伝いさせていただいてきました。また塗料関連以外でも、土木建築関係、生産関連資材など多岐にわたる商品提供も積極的に行ってまいりました。貿易関係では古くからインテリア用品などの輸入販売や、最近ではICなどのエレクトロニクス製品の輸入販売も手がけており、また様々なお客様の輸出入のサポートも行っています。

### 【事業紹介】

当社は商品を提供するだけでなく、お客様のもとで塗料が「塗膜」となるまでのプロセス全般をお手伝いしたいと日々活動しております。当社では技術センターを擁して、塗料・設備・機器・各周辺材料の導入検討など、お客様へ最適な商品・サービスを提供すべく、全国約40箇所の営業拠点とともに各仕入先様と協働しています。我々の企業理念である「最適整合の創造」の実現に向けて日夜努力しております。

### 【製品名】

炉内温度測定システム オープントラッカーXL

#### ■特長

製品と一緒にオープンを通過するように設計されており、プロセス全体を通じての実際の製品温度を測定します。データロガーは、耐熱ボックスによってオープンの熱から保護されています。製品温度がDatapaqソフトウェアを用いて分析され、詳細なレポートができます。

温度プロファイリングシステムの使用は、塗装製品が正しく硬化されたことを顧客に証明する、ツールを提供します。正確な製品温度プロファイルデータは現在の製造プロセスにとってかけがえのないものです。

#### ■導入により期待されるメリット

塗装品質を保証するために、必要な硬化スケジュールに到達していることを確認します。品質に影響し得る問題が発生した場合には、ただちにそれらを識別します。オープン操作を最適化し、製品の精度要求に合わせます。硬化プロセスがコントロールされた反復可能な方法で行われていることを日々検証します。硬化不良品をなくします。問題が発生した際に、即座にその問題の原因と発生場所を識別します。後続のプロファイル実行で、プロファイル情報を用いて必要な修正措置を提案し、その措置の成功を検証します。販売実績100式

## 株式会社桂精機製作所

代表者名 : 社長 丸茂 等  
住所 : 〒221-0052 横浜市神奈川区栄町 1-1

TEL 045-461-2336 FAX 045-461-2343  
URL <http://www.katsuraseiki.co.jp>

### 【会社プロフィール】

弊社は1955年の創立以来、地球環境保全に役立つガス体エネルギーをより安全に安心してお使い頂く為に、ガス供給機器・燃焼機器を製造・販売して参りました。特に燃焼機器分野においては、永年にわたって蓄積した熱風乾燥、遠赤外線乾燥の技術をベースに、塗装関連分野を中心に取組んで参りました。その製品開発力は業界でも高い評価を得ており、技術のカツラとしてこれからも社会・環境に貢献して参ります。

### 【事業紹介】

- 燃焼設備の設計、製作、施工  
熱風発生装置、ガンタイプバーナ、遠赤外線バーナの製造販売
- 塗装設備の設計、製作、施工  
バッチ炉、熱風乾燥炉、塗装ブース、遠赤外線乾燥炉の製造販売
- VOC処理設備の設計、製作、施工  
燃焼式VOC処理装置、VOC濃縮装置の製造販売

### 【製品名】

遠赤外線乾燥炉

#### ■特長

- 遠赤外線利用で高効率、省エネルギー
- 低VOC塗料の乾燥にも最適
- ガス式でCO<sub>2</sub>やNO<sub>x</sub>の排出が少ない環境に優しいシステム

#### ■導入により期待されるメリット

- 乾燥時間の短縮
- 生産性の向上(ラインスピードアップ)
- 塵付着防止
- 省スペース
- ヤニ付着防止

## 株式会社カンペプラントエンジニアリング

代表者名 : 社長 伊藤 潤  
住所 : 〒541-8523 大阪市中央区伏見町 4-3-6  
TEL06-6203-6535 FAX06-6203-4496  
URL http://www.kansai.co.jp

### 【会社プロフィール】

平成4年4月関西ペイント(株)より100%子会社として独立し、塗料メーカーの設備会社として数多くの塗装ラインの設計・施工を行っております。

### 【事業紹介】

#### ①設備計画プランニング

当社は塗料の総合トップメーカー関西ペイントの設備メーカーとして常に最先端塗料にマッチングした塗装設備のご提案を行っています。

お客様のご要望に基き、塗料技術・設備設計・購買・営業部門によるプロジェクトチームを作成しお客様のニーズにマッチする具体的な検討を行い、また、平塚開発センター内にある各種モデル塗装設備による「塗装と塗料が確実に適合し仕様に合っているかの事前確認」を設備納入前に必要に応じて行っています。

#### ②工事实績

- 表面処理、電着、水性、粉体、溶剤等各種塗料の塗装設備一式
- 自動移載、キャリア搬送、ダストフリー搬送等各種搬送システム
- 各種塗料供給システム 等塗装ライン全般

#### ③サービス体制

全国各地の関西ペイント営業所と連携し国内全域をカバーしております。

### 【製品名】

代表的な商品(システム)をご紹介します。

#### ①缶内自動調色システム

##### ■特長

関西ペイント(株)開発によるアレスマッチをベースに見本板に合わせた色を石油缶内で調色～攪拌を自動で行うシステム。

原色の石油缶内で調色が可能な為、調色タンクに空け替える必要が無く、廃缶、廃溶剤等が出ず、調色ミスによる残塗料や目欠も無く、作業時間の大幅短縮による業務効率UPが期待できます。

#### ②自動粘度調整供給システム

##### ■特長

最適塗装条件に合わせ、塗料の温度・粘度を一定に自動制御し塗装機に供給するシステムで、塗装毎の吐出量調整が不要で塗料ロス・時間の大幅削減が期待できます。

#### ③その他

・無排水システム  
洗浄液再利用システム 等環境・コストに配慮したシステムがあります。お気軽に弊社までお問い合わせ下さい。

## 株式会社ケミコート

代表者名 : 社長 中川 完治  
住所 : 〒279-0002 千葉県浦安市北栄 4-15-10  
TEL047-381-7721 FAX047-381-7720  
URL http://www.chemicoat.co.jp/

### 【会社プロフィール】

#### 沿革

昭和32年4月創業、昭和36年 渋谷区道玄坂に本社移転、昭和42年 資本金2000万円に増資、昭和47年 浦安市に工場建設/資本金4000万円、昭和51年 資本金8000万円、昭和62年 中央区京橋に本社移転、平成2年 資本金9600万円、平成6年 中央区銀座に本社移転、平成9年 浦安市に本社を移転・統合、平成11年 市川税務署より優良法人として表彰される/同年11月 ISO14001 認定、平成13年 千葉県元気印大賞受賞(電解水)

#### 経営理念

必要なものを創り出し、世の中に供給していく。

#### 会社方針

お客様第一主義 常に改革

### 【事業紹介】

当社は、前処理剤のメーカーとして洗浄剤、皮膜化成剤の販売をしており、薬剤使用のノウハウを設備設計に生かし、現場の状況を考慮した前処理・塗装設備の設計施工を行っております。

特に、前処理設備の設計においては、無排水処理の設備実績を多く持ち、お客様に好評を得ています。焼き付け乾燥炉、蒸発装置、水洗ブースの薬剤(キラ剤)の特

長を生かした塗料滓回収システムに独自の技術を有していると自負しております。

### 【製品名】

ライン内ワーク停止システム

##### ■特長

1. 昼休み、終業時、処理物をライン内につり下げたまま放置できます。
2. ライン内に処理物の空きを作りません。
3. 前回の終了状態から再スタート出来ます。生産性が向上します。
4. 上記システムはケミコート専用薬剤と従来の設備の改造により実現できます。

##### ■導入により期待されるメリット

各お客様によりメリットは異なります。現在、昼休み、終業時に前処理ライン内に出来た空間の経済計算分がメリットとしてお客様が享受できます。現在導入のお客様において、年間1000万円以上のメリットを出しているお客様があります。

## グラコ株式会社

代表者名 : 社長 楠木 直彦  
住所 : 〒224-0025 横浜市都筑区早瀬 1-27-12  
TEL 045-593-7300 FAX 045-593-7301  
URL http://www.graco.co.jp

### 【会社プロフィール】

1926年に創業されたグラコは、流体ハンドリングシステムおよび塗装機器業界のリーダー的なグローバル企業です。グラコの製品は塗装はもとより、潤滑や各種工業で使用されるあらゆる種類の液体や粘性のある材料の移送、圧送、計量供給・混合などの用途に使われています。

### 【事業紹介】

スプレーコーティング、ペイントサーキュレーション、ルブリケーション、多液混合システム、シーリング剤、接着剤、建築塗装など幅広い用途の流体ハンドリング機器を提供しています。特に多液混合システムでは先進的発想の下、常に業界をリードする高度の技術を有しています。

### 【製品名】

プロミックスII

##### ■特長

現在、お客様が手混ぜ、あるいは機械式混合装置をご使用でしたら、必要以上の材料のムダ、工賃、比率不良による製品の再生処理コストが発生している可能性があります。グラコのプロミックスIIはこれらの費用を減らし、短期投資回収を実現します。

##### ■導入により期待されるメリット

プロミックスIIは常に高精度の混合比率を維持でき、作業コストだけではなく材料のムダを低減し、環境保全に貢献します。ほとんどの2液性溶剤系及び水性系のエポキシ類、ポリウレタン類と酸硬化型ワニス類等の比率混合に最適な装置です。発売以来1年半で世界中のお客様に約800台のご利用を頂いております。

## 昭和塗装機株式会社

代表者名 : 社長 土田 紀八  
住所 : 〒470-0162 愛知県愛知郡東郷町春木小坂 57  
TEL 0561-38-1213 FAX 0561-38-1289  
URL http://www.shouwa-tosouki.co.jp/

### 【会社プロフィール】

創立1974年4月(昭和47年4月)。アースフレンドリー「共産」の時代を迎えて製品開発当初から「作る」ことだけでなく、地球環境やエネルギー資源のリサイクル、省資源、低公害と言った根本的課題を考えなければなりません。当社は、企業マネジメントの重要課題となったエコロジーに対し何をなすべきかを常に考え対応しています。高い技術力、独立的な発想が広く評価され、環境が害されないことを考慮しつつ、数多くの技術ノウハウを創造してきました。

### 【事業紹介】

- 1) 塗装設備の設計、製作、施工  
液体静電、粉体静電、ガンタイプ、電界流動粉体塗装装置、カチオン電着塗装設備、樹脂コーティング装置、静電植毛装置、各種塗装機の販売及び管理
- 2) 自動塗装装置及び塗装システム設計、製作、施工  
最近ではVOC対応、高美装の低圧ガン方式の自動塗装装置で環境保全に貢献しています。
- 3) 当社の得意とする樹脂コーティング、流動浸漬設備は国内、国外に多数のラインが元気に動いています。

### 【製品名】

電界流動粉体静電塗装装置  
(塗装ガンを使わない薄膜美粧肌の静電塗装の革新)

##### ■特長

電界流動とは

- 1) 多数のコロナピン通電し(一)30kVの低電圧を印加しています。
- 2) 電極間に、電界が生じて、数多くの電気力線が働くことにより塗着効率が向上します。
- 3) この電界の中にエアで流動状態にした粉体塗料を吹き上げて帯電します。
- 4) 吹き上げた粉体塗料は、電界の作用とエアでワークに均一に効率良く塗着します。
- 5) クラウドの濃度で、塗装膜厚を管理できます。

##### ■導入により期待されるメリット

- 1) 薄膜が可能: 膜厚の薄膜化20ミクロンが可能です。
- 2) 膜厚が均一: 塗膜厚がワークの上下で平均した塗膜厚が出来ます。
- 3) 省スペース: 塗装ブースのコンパクト化により塗装ブースの設置面積が少なく済みす。
- 4) 平滑良好: 塗膜の平滑性型のガンに比べて、絶大に良く溶剤型の様な仕上がりになります。従来の粉体塗料のそれとは考えられない肌仕上がります。

## 精和産業株式会社

代表者名 : 社長 和田 平  
住所 : 〒136-0072 東京都江東区大島 5-12-7

TEL 03-3638-6911 FAX 03-3638-6921  
URL <http://www.seiwa.com/>

### 【会社プロフィール】

1971年に現社長が脱サラ独立し、設計技術を核に新製品(年間約10品目)を開発し、生産管理を核にIT化を推進。自社工場で品質管理を中心に製造組立し、海外輸出も展開。「軽量で使い易さを追及した開発から、メーカーによるアフターサービスを自社で唯一行い、情報提供と万全のアフターサービス網で全国どこでも安心して弊社製品をお使いいただけます。

### 【事業紹介】

エアレス塗装機、洗浄機の国内トップメーカーで環境重視、使い易さを追及。お客様のご要望に小ロット開発生産に対応。

- 1) エアレス「とばな〜い」で極低飛散を実現(特許出願中)
- 2) 最軽量、最静音の防音コンプレッサー(特許出願中)
- 3) 最軽量、らくらくリコイル防音洗浄機(特許出願中)

ガンクリーナーと最高級、廉価な溶剤再生機が人気上昇などの種々の流体機器と表面処理機

### 【製品名】 代表的な商品をご紹介します。

エアレス塗装機「とばな〜い」、MS-8000、スーパー60L

#### ■特長

「とばな〜い」はNo. 1の販売数を誇るベストセラーのエアレス塗装機、低圧35キロでもテールが出ず、殆んど飛散が無い。国内最強950W高出力モーターで、大型油圧室で作業効率を大幅アップ。また新開発のMS-8000はジョリパットまでを吹付け可能(講習認定必要)、スーパー60Lはアスベストの封じ込め、除去作業にも約20年の実績があり、建設業労働災害防止協会のマニュアルにも掲載されています。エアレス塗装機全機種について、吐出・吸入弁は研磨性塗材にも対応の高耐久性です。

#### ■特徴

最軽量・最小型の防音型高压洗浄機で、現在ベストセラーとなっています。「らくらくリコイル」で座ったまま2本指でゆっくり引いて、冬でも楽々1発始動。冷却構造(特許出願中)で温度大幅に下げ、真夏の暑さにも断然強い。オイルセンサー付き。

## 株式会社大気社

代表者名 : 社長 山本 廣  
住所(本社) : 〒163-0212 東京都新宿区西新宿 2-6-1  
(塗装設備事業部) 〒141-0032 東京都品川区大崎 1-11-2  
ゲートシティ大崎イースタワー9階

TEL 03-3344-1851 (代) FAX 03-3342-5590  
TEL 03-3493-3001 FAX 03-3493-3005  
URL <http://www.taikisha.co.jp/>

### 【会社プロフィール】

大気社は「顧客第一」をモットーに、お客様のご要望を具体化してご提案しています。環境制御技術をキーテクノロジーに、塗装プラント、一般ビル空調、産業空調の三つの領域から、地球環境保全まで幅広い環境空間で「省エネルギー・低コスト・省力化」を実現いたします。また世界約二十カ国・地域に広がるグローバルネットワークを有し、海外での実績も豊富です。

### 【事業紹介】

下記の設備の設計・施工・管理及び関連機器製造・販売

- ・塗装プラント
- ・空気調和設備、換気・乾燥設備
- ・給排水・衛生設備、防火防災設備
- ・地域冷暖房、コ・ジェネレーション設備
- ・排気・廃水・廃棄物処理設備
- ・電気設備、計装
- ・建築及び土木

### 【製品名】

ロータリー式RTO オドレットR

#### ■特長

- ・高いVOC処理効率(99%以上)
- ロータリー弁にバネ押え機構採用
- ・高い温度効率(95%以上)
- 小さい圧力損失(標準3,000Pa)
- 高性能・低圧損のセラミックハニカム採用
- ・幅広い処理風量
- 小形タイプ 30~360Nm<sup>3</sup>/min
- 大形タイプ 360~2,000 Nm<sup>3</sup>/min

#### ■導入により期待されるメリット

熱交換器にロータリー式の高性能・低圧損のセラミックハニカムを採用することにより、99%以上の処理効率と95%以上の温度効率を低圧損にて実現した環境対策への貢献度の高いシステムです。

## 大日本塗料株式会社

代表者名 : 社長 山下 文隆  
住所 : 〒554-0012 大阪市此花区西九条 6-1-124

TEL 0568-76-5556 FAX 0568-76-9132  
URL <http://www.dnt.co.jp>

### 【会社プロフィール】

昭和4年7月創立以来、鉄錆の研究開発を重ね、数々の塗装実績で関係業界の高い信頼を得ています。省資源、環境保全を基本に独自の技術開発に努め、業界トップの重防食塗料、建材用塗料をはじめ、数多くの優れた高機能塗料を提供しています。海外展開も着実な成果を挙げ、また、塗料技術から誕生した蛍光塗料事業、蛍光照明機器事業も業績を拡大、新たにIT関連事業も実績を挙げつつあり、ファインケミカル会社として一層の飛躍を目指しています。

### 【事業紹介】

塗料製造および販売、各種塗装機器および装置販売、塗装工事請負および管理(営業品目)  
重防食塗料、建築汎用塗料、自動車用塗料、自動車補修用塗料、金属焼付美装用塗料、重車両・産業機械用塗料、木工・建材用塗料、プラスチック用塗料、マーキングフィルム、各種塗装機器、塗装工事

### 【製品名】

「ケーデーエコクール」「エコクール道路用」

#### ■特長

熱エネルギーを持つ太陽光を約90%反射し、一部吸収した熱を高放射する建物外装用塗料「ケーデーエコクール」。建物の温度上昇を防止し、冷房コストを低減することで都市のヒートアイランド化現象を抑制する。また、塗膜には汚れ防止機能があり光の高反射、熱の高放射機能を長期にわたり持続します。さらにアスファルト路面の熱エネルギー蓄積を防ぐ機能を持つ道路用の遮熱塗料「エコクール道路用」も開発、発売しました。

#### ■導入により期待されるメリット

(導入実績…台・円)  
「ケーデーエコクール」  
表面温度が20℃以上下がり、室内温度が数℃下がることでエアコン設定温度をさげることができる。「エコクール道路用」  
夏場の路面温度を10℃以上下げることで都市熱を緩和する。更にアスファルト道路の耐久性を向上させ、轍掘れ防止効果による交通事故を減少させる。

## タクボエンジニアリング株式会社

代表者名 : 社長 佐々木 栄治  
住所 : 〒142-0041 東京都品川区戸越 5-15-17

TEL 03-3783-4766 FAX 03-3783-0121  
URL <http://www.takubo.co.jp/>

### 【会社プロフィール】

発想イノベーションをキャッチフレーズに、従来の考えから脱皮し、新しい技術を創造し、変えてゆく機器開発を目指しています。

### 【事業紹介】

- ・塗装データ作成ロボットと生産ロボットを分離した生産スタイル「DATASS-300(デイトス)」の思想を具現化すべく塗装システムの研究開発
- ・携帯電話をはじめとするモバイル機器の塗装システム開発
- ・自動車部品塗装システム開発
- ・その他「品質、コスト、管理」を同時に実現可能にする塗装ロボットシステムの開発

### 【製品名】

- ・塗装ロボットシステム「SOFTBOY PRO」
- ・排熱回収型熱風乾燥機「ドライテック」
- ・騒音、長寿命設計「オイルブース」

#### ■特長

- ・品質、コスト、環境、管理を総合的に実現可能にする管理型ロボットシステム
- ・塗料消費量を大幅削減
- ・低コストによる高品質化塗装の実現
- ・最新の「Rの技術」による塗装技術採用
- ・コントロール可能な精密定量塗料供給システム装備

#### ■導入により期待されるメリット

- ・大幅な塗装コストの削減化
- ・塗料消費量の大幅削減
- ・世界に通用する塗装品質
- ・塗装情報の管理
- ・ロボット塗装技術の向上

## 株式会社椿本チェーン

代表者名 : 社長 美本 龍彦  
住所 : 〒102-8186 東京都千代田区九段北3-2-4  
メヂカルフレンドビル

TEL 03-3221-5619 FAX 03-3221-5638  
URL <http://www.tsubakimoto.jp>

### 【会社プロフィール】

1917年、初代社長椿本説三の個人経営として創業。ローラチェーンではトップシェアを誇り、そのほかのパワートランスミッション機器やマテリアルハンドリングシステムの分野でも豊富な実績を持っています。現在は、国内外においてグローバルな製造・販売を展開しており、ブランドメッセージ「Innovation in Motion」の通り、常に動かすことにかけての提案を続けています。

### 【事業紹介】

チェーン及び伝動装置（パワトラ事業）、コンベヤ及び搬送装置（マテハン事業）を、あらゆる業界に納入しています。特にマテハン事業では、自動車・流通・新聞・食品・IT・金融等の業界に、保管・搬送・仕分けの装置・システムを、豊富な蓄積ノウハウを基にしたシステム開発力とユーザーニーズを先取りしたマーケティング力により、高能力・快適環境化に貢献する商品を提供しています。

### 【製品名】

クリーンタイプオーバーヘッドコンベヤ  
つばきTHCフリーカーブ「ダスカバリー」

#### ■特長

「ダスカバリー」は従来型オーバーヘッドコンベヤ（弊社機種：フリーカーブ）のレールとチェーンの上下方向を逆にし、レールのスリット（一次ハンガが通るレールの溝部分）を上向きにしたオーバーヘッドコンベヤ。レール内で発生したゴミを落下させない構造。単純構造ながら、従来型のノウハウを十分生かした搬送機器で、その中でもニーズの多い軽量型「チェーン破断強度5トクラス」の機種を商品化。

#### ■導入により期待されるメリット

コンベヤからのゴミ落下を防止する事により、塗装品質が向上（ゴミブツ不良減少）。樹脂部品の塗装の場合、被塗物自体が持つ「帯電性」が高いことに起因するゴミ・ほこり等の付着が減少。又、搬送物の品質保護だけでなく、塗装作業場の環境改善にも役立ちます。

## デュル・ジャパン

代表者名 : 社長 片山 眞司  
住所 : 〒222-0003 横浜市港北区新横浜2-7-4  
フジビル9F

TEL 045-475-3671 FAX 045-475-3672  
URL <http://www.durr.com>

### 【会社プロフィール】

デュル・ジャパンは2001年に Dürr 塗装事業部を統括する Dürr System GmbH 社の100%子会社として設立いたしました。日本国内では、Dürr の最新テクノロジーを駆使したアトマイザー（高速回転塗装機）EcoBell シリーズを日本市場に展開いたします。また、国内自動車メーカーのニーズにお応えするためドイツ本社と協力し、技術開発を行います。

### 【事業紹介】

近年ではVOC規制により、特に欧州で塗装ラインの水溶性が進んでいます。Dürr は全世界の自動車工場で水性塗装ラインの85%を製作しました。弊社はあらゆる塗料に適した静電塗装機 EcoBell シリーズをドイツ本社より輸入販売しており、お客様のニーズに合わせて機種をお選びいただけます。すでに一部の国内の自動車メーカー様の塗装ラインへ導入、またラボテスト用としても自動車メーカー・塗料メーカー様へ納入しています。

### 【製品名】

EcoBell2

#### ■特長

EcoBell2 は、EcoBell の新型機種です。EcoBell と同様にあらゆる塗料を使用する静電塗装に適しています。本機種は、(1) 2系統のシェーピング・エアを有し、パターン可変による塗料使用量削減、(2) 高いエア・タービンのトルクによる高吐出量、ロボット台数の削減が可能です。直接帯電（内部印加）方式、間接帯電（外部印加）方式共にラインナップされています。

#### ■導入により期待されるメリット

EcoBell2 のパターン可変により自動車ボディの端部ではパターンを狭くしてオーバー・スプレーを少なくすることで約20%塗料使用量を削減できます。なお、この機能はバンパーや小物部品に特に効果的で塗料使用量の削減効果も大きくなります。また EcoBell2 の特長である高微粒化およびパターン可変方式により塗装パラメータの管理幅が広くなり、仕上がり肌やカラーマッチが容易になります。

## 東和酵素株式会社

代表者名 : 営業技術部 部長 内山 貴識  
住所 : 〒254-0064 神奈川県平塚市達上ヶ丘1-6

TEL 0463-31-1872 FAX 0463-32-3318  
URL <http://www.towaenzyme.co.jp>

### 【会社プロフィール】

ミタゲン菌から抽出した酵素液の製造販売を目的に1957年、前身となる東和酵素研究所は設立されました。それ以来、ミタゲン菌は固体培養法にこだわり生産され、その用途は繊維業界に始まり一般家庭向け浄化槽、さらには様々な分野の産業排水向けの微生物製剤として販路を拡大して参りました。また、本社及び各地方都市にはミタゲンアナライズセンターを設置し、メーカーによる万全のアフターサービスをご提供させて頂いております。

### 【事業紹介】

弊社は、酵素微生物剤メーカーとして一般家庭向けから産業分野に至るまで、様々な商品を製造販売しております。その中でも産業排水向け微生物製剤の分野ではすでに30年以上の実績を有しており、大変ご好評をいただいております。

- ・ 産業排水向け微生物製剤
- ・ 浄化槽用微生物製剤
- ・ 農業、園芸用微生物製剤
- ・ 湿式塗装ブース用微生物製剤
- ・ 酵素入り入浴剤

### 【製品名】

ミタゲンクリアー  
■特長  
ミタゲンクリアーは弊社オリジナルの好気性菌であるミタゲン菌を製剤化したもので、1g中に120億個以上の菌が含まれています。ミタゲン菌は環境対応能力に優れた細菌で、通常では活性が阻害される親水性有機溶剤や化学薬品までも分解が可能です。又、これまでのバイオ処理のような大掛かりな設備投資を必要とせず、ブース水槽に攪拌・曝気等の装置を設置するだけでバイオブースに改造できます。  
■導入により期待されるメリット  
・ 臭気の減少  
有機酸や嫌気による腐敗臭などの臭気成分を分解し、作業環境を改善する  
・ スラッジ性状の変化  
スラッジが不粘着化し、水膜板や渦巻板にスラッジが付着しにくくなる  
・ スラッジの減量  
塗料ミストから溶出した有機物を分解するため、スラッジが減少する  
・ 循環水のリサイクル  
循環水が浄化されるため、リサイクルが可能

## 株式会社常盤電機

代表者名 : 社長 林 伸太郎  
住所 : 〒504-0957 岐阜県各務原市金属団地65

TEL 0583-89-4111 FAX 0583-83-2354  
URL <http://www.keytokiwa.com>

### 【会社プロフィール】

昭和37年(1962)会社創立、産業用電気機器販売でスタートし、ベンチャービジネスの道を拓き、たえず新しい変革の種を育て、エレクトロニクスから塗装技術を中心としたメカトロニクスへと進み、多くの発明、新製品を開発し、それぞれの分野でさらなる研鑽を積み、特異性を育み、変革に順応し、新たな「TOKIWAの技術集団」として21世紀の新しい展開に順応し、社会に貢献をする。

### 【事業紹介】

電機事業部のエレクトロニクス、産機事業部のメカトロニクス両事業部の周知を結集し、塗装装置を中心にした、お客様要求のオーダーメイド設備を提供し、機械・制御設計、製造、組立、工事、プログラミングまで自社で対応し、さらに迅速なアフターサービスを心掛けております。

### 【製品名】

プラスチック家電部品塗装装置

#### ■特長

塗装ブース、塗装ロボット、乾燥炉、給気装置をコンパクトに納めた水系塗料対応塗装装置  
(ユーザーオーダーメイドの実例)  
納入地：中南米

## 日本パーカライジング株式会社

代表者名 :取締役事業部長 岩松 勝男  
住所 :〒273-0018 千葉県船橋市栄町2-14-6

TEL 047-434-5008 FAX 047-434-3732  
URL [http://www.parker.co.jp/p\\_ionics/top.shtml](http://www.parker.co.jp/p_ionics/top.shtml)

### 【会社プロフィール】

日本パーカライジングの金属表面処理事業の1分野として、環境保全対応技術である粉体塗装機器及びシステムを国内外の市場に提供致します。

### 【事業紹介】

国産メーカーとして粉体塗装機器、システムに特化した事業展開を行っております。各種粉体塗装のシステム提案から、納入機器、システムのアフターサービスまで、粉体塗装に関するご要望にお応えできる体制を整えております。

### 【製品名】

1. 静電粉体塗装機(GX7000シリーズ)
2. 粉体塗料定量供給装置(JF、AF)
3. 静電粉体色替えブースシステム(C-MCB)

#### ■特長

弊社新開発商品の Pulse Power コロナ帯電方式の静電粉体塗装ガンは、高電圧低電流の荷電により従来方式に比較すると、飛躍的に塗料の帯電量を向上させると共に、無駄なフリーイオンを抑制することができます。これらの性能は、容易な作業で高効率、高貫入性の粉体塗装を行うことができます。また、弊社粉体色替え対応ブースシステムは、各種ご使用条件に合うシステム構成が用意されており、塗料の高使用効率、ラインの高稼働効率を実現させます。

#### ■導入により期待されるメリット

有機溶剤を使用しない粉体塗装は、環境保全対応の塗装方法であると共に、塗膜性能及び、作業性、安全性は、現状の溶剤塗装の課題を解決するものです。

## 日本ペイントプラント・エンジニアリング株式会社

代表者名 :社長 上野山 雅啓  
住所 :〒564-0053 大阪府吹田市江の木町26-20

TEL 06-6190-6541 FAX 06-6190-6545  
URL <http://www.npe.co.jp>

### 【会社プロフィール】

日本ペイントのグループ会社として設備エンジニアリングに対するニーズに幅広く迅速に対応できるよう、企画・立案から設計・施工、そして管理・運営にいたるまで、トータルにシステムティックに対応しています。生産性・安全性・経済性・快適性などに重点をおくとともに、今日の大きな課題である環境対策のニーズにもベストフィットしたシステムを構築。一貫した高度なエンジニアリング体制でシステムを形にし、さらに信頼性の高いサービス&メンテナンス体制で管理・運営をサポートしています。

### 【事業紹介】

#### ①環境エンジニアリング:

- ・排水低減、排水レス…RCS、前処理・電着排水クロードシステム、サーフジェットリアクターシステム
  - ・塗料、薬品再利用…ARLS、ECS、RWB
  - ・水再利用…アクアクリア
  - ・省エネルギー…2重扉乾燥炉、可動ノズル式洗浄装置
- #### ②塗装エンジニアリング:
- 表面処理、電着、粉体、水性、溶剤、ロールコーター
- #### ③搬送:
- ドラコンコンベア、キャリア搬送

### 【製品名】

代表的な商品を紹介します。

1. RWBシステム (写真)
2. サーフジェットリアクターシステム

#### ■特長

1. RWBシステム
  - 1) 環境: ①塗料回収装置によりブース水腐敗による悪臭なし ②水性塗料のリサイクル化により産廃物の低減
  - 2) メンテ: ①塗料回収より清掃周期の大幅減
  - 3) 経済性: ①定期清掃減による清掃費大幅減 ②塗料回収による廃塗料極小化
2. サーフジェットリアクターシステム
  - 1) 環境: 電気分解の凝集・浮上作用により固形分を分離し水の再利用を図る。
  - 2) メンテ: シンプルな構造で操作が簡単
  - 3) 経済性: 水の再利用により、排水処理費の低減

## 日本ワグナー・スプレーテック株式会社

代表者名 :社長 ゲルト・テルブッシュェア  
住所 :〒574-0057 大阪府大東市新田西町2-35

TEL 072-874-3561 FAX 072-874-3426  
URL <http://www.wagner-japan.co.jp/>

### 【会社プロフィール】

ワグナーグループは、全世界で50カ国以上の販売及びサービスネットワークを持つ世界規模の塗装機メーカーです。基本理念は、品質管理に基づく、革新的・先進的な商品を生産し顧客満足を得る事にあります。液体塗装機はもとより、粉体塗装機分野においても世界的なマーケット・リーダーとして事業展開しております。今後もワグナーは最大の顧客満足につながる製品・組織・サービスの更なる向上に向けて継続的な努力をお約束致します。

### 【事業紹介】

- ・コンシューマー (DIY用商品)  
カップガンを中心に、ヒートガン、HVL P塗装機を生産販売。DIYにおけるカラークリエイトの先駆者。
- ・コントラクター (建築塗装商品)  
ダイアフラムエアレスポンプを中心に電動ピストンポンプ、エンジンピストンポンプ、洗浄機等を生産販売。特にダイアフラムエアレスポンプは、世界における先駆者であり、世界的なシェアを保有する。
- ・インダストリアル (液体・粉体)  
静電塗装機、ニューマチックポンプ、粉体塗装機、2Kユニットを生産販売。ニューマチックポンプは凍結防止エアーマーター採用。

### 【製品名】

粉体塗装機「プリマ」コロナ&トリボ

#### ■特長

高機能、経済性、安定性を更に追求。  
①4つの塗装条件設定 (標準、複雑形状、リコート、任意設定) ②ディスプレイに設定・運転の電圧・電流表示 ③トータルエアで吐出量を維持し、吐出スピードの変更可能 ④コロナ・トリボガンが共用可能 ⑤メタリックパウダーに威力を発揮 ⑥エア振動モーターでより安定したパウダー供給 ⑦インジェクターP1-P1はパウダーの連続安定供給を保障

#### ■導入により期待されるメリット

①従来機よりも膜厚を得る事が出来る (塗着効率のアップ) ※自社テストにおいて3ヶ月間平均で30%の粉の節約が可能 ②トリボとコロナが共有でき、どの様なワークに対しても対応可能 ③メタリック塗装に悩むことがなくなる ④高いリコート性が可能

## ノードソン株式会社

代表者名 :社長 小林 茂  
住所 :〒140-0012 東京都品川区勝島1-5-21 東神ビル8F

TEL 03-5762-2700 FAX 03-5762-2701  
URL <http://www.nordson.co.jp>

### 【会社プロフィール】

1969年に世界60カ国以上にネットワークを広げる米国ノードソン・コーポレーションの日本法人とし発足し、接着、コーティング、シーリング等の分野に関連機器及び技術ノウハウの提供をしております。常にお客様の満足と発展、環境保護、業界発展と地域社会への貢献を会社の使命とし、ノードソンの“Package of Values”を多くのユーザーに提供しつづけ、あらゆるマーケットでベストカンパニーを目指してします。

### 【事業紹介】

ノードソンは、早くからホットメルト接着やパウダーコーティングといった無溶剤のアプリケーションを手がけている。世界60カ国以上におよぶネットワークを通じて世界中の顧客に機器とノウハウを提供している。特にパウダービジネスは、世界の多くの顧客とコンタクトすることで常に顧客のニーズを先取りし、顧客満足度を第一とし強力な技術組織によって業界に先駆けて最先端技術と付加価値を提供し続けている。

### 【製品名】

ノードソンカラーマックス高速色替えブース&iControl システム

#### ■特長

ノードソンカラーマックスブースは、粉体塗装先進国の欧米で多く愛用されているブースシステムで、アポジー等の独自開発のプラスチック素材をブース壁に応用し、高速色替えに最適な形状に設計されたブースシステムです。また、iControl システムは、最先端の技術を駆使したガンコントロールシステムで、一つのLCDパネルに全て操作を集約させ、簡単にそして確実にパウダー塗布のコントロールが可能になった。

#### ■導入により期待されるメリット

ノードソンカラーマックスブースは、簡単操作で、確実に高速色替えができるばかりでなく、コンパクトなデザインで設置スペースも小さくできる。また、ブース素材も多様に有し幅広い価格帯を選択できる。iControl システムでは、誰にでも簡単に塗装条件の設定や操作ができるようになり、様々にある製品の塗装品質を向上させ、更に塗料の使用量を大幅に削減できます。

## パーカーエンジニアリング株式会社

代表者名 : 社長 井手 篤雄  
住所 : 〒103-0027 東京都中央区日本橋 2-16-9

TEL 03-3278-4599 FAX 03-3281-1967  
URL <http://www.parker-eng.co.jp>

### 【会社プロフィール】

弊社は1951年の創業以来、一貫して鉄を錆から守る金属表面処理技術と塗装設備技術の発展に尽力してきました。弊社の技術は自動車はもちろん、身の回りのあらゆる金属製品に生かされており、目立たないながらも私たちの暮らしに大きく貢献していると自負しております。

### 【事業紹介】

- ・金属表面処理設備、塗装設備のエンジニアリング（設計・製作・据付・試運転）
- ・塗装用濾過フィルターの販売
- ・環境設備、及びシステムのエンジニアリング

### 【PR】

弊社は、表面処理剤のトップメーカーである日本パーカライジング（株）を親会社に持つパーカーグループの一員です。それによりグループ会社の技術を結集し、お客様に最適な設備をご提供することができます。

＜環境対応型リサイクル塗装ブース＞  
省エネルギー（約25%削減）・CO<sup>2</sup>削減・VOC対策に貢献。

＜パーカー・バイオトロンPBTシステム＞  
化学薬品ではなく、安全な微生物を使って塗料スラッジを処理。

＜パーカー無排水処理システム＞  
塗装システムからの廃水を外部に出さない上に水の約60%をリサイクル可能に。

### 【トピックス】

台湾、タイ、中国、インドネシアの現地法人に続き、弊社は2005年10月にインド・ニューデリーに現地法人を開設しました。現在、日系大手企業2社向けに、四輪、二輪用塗装設備の据付工事が進んでいます。

- ・各種電着装置・各種コンベア・各種環境装置（脱臭・排水廃液処理）・表面処理剤・工業薬品
- ・メンテナンス：修理・改造に即座に対応する体制を整えています。
- ・定期点検：塗装設備全般の定期点検を行い、修理改善の個所を提案します

### 【製品名】

白電耐熱オイル

### ■特長

本品は精製鉱物有機モリブデン化合物や酸化防止剤を配合した高性能オイルです。耐圧・耐摩耗性に富み、少量でも持続効果があり、クリーンな給油を可能にします。

### ■用途

塗装乾燥炉のチェーンやスプロケット  
各種機械の擦動面や回転部の手差し給油

## 松尾産業株式会社

代表者名 : 社長 松尾 俊彦  
住所 : 〒541-0053 大阪市中央区本町 3-5-7  
御堂筋本町ビル

### 【会社プロフィール】

1938年創業、1949年株式会社に改組。塗料原料・機能材料・光学部品・自動車部品等を中心に、化学・電子・電気・自動車分野の商材を幅広く取り扱っている専門商社。技術を紹介できる営業集団を特徴とする。創業以来、塗料業界との歴史は長く、主力商品であるアルミ顔料は、国内取扱いシェア60%を誇る。ここ数年は、アジアに特化した海外展開を強化。

### 【事業紹介】

アジア各国へ積極的に事業展開をしている塗料メーカーへの対応を強化すべく、既存のシンガポール支店に続き、2004年上海に現地法人（上海松尾貿易有限公司）を設立。広州・天津・重慶・成都の販売拠点を含めたグループ全体では総勢60名の体制で、国内と同等の安定したデリバリー・技術サービスを提供している。2006年には、自動車産業を主体に成長著しいタイに現地法人（Thai Matsuo Co., Ltd.）を設立の予定。

### 【製品名】

水性アルペースト（製造元：東洋アルミニウム株式会社）

### ■特徴①

環境に優しい水性塗料・インキ用に水性処理を施したアルミニウムペーストです。水との反応を抑止する処理により、水性塗料・インキの貯蔵安定性に優れています。各種バインダーに合わせ、リーフィングタイプ、ノンリーフィングタイプ、各種シリーズをご用意しています。

（代表シリーズ）

WXシリーズ、WJシリーズ、WLシリーズなど  
ボンデッドアルミ（製造元：東洋アルミニウム株式会社）

### ■特徴②

ボンデットアルミとは粉体塗料樹脂とアルミフレーク顔料を統合させたものです。従来のボンデット法は物理的なストレスによりアルミフレークを樹脂に圧着させるため、アルミフレークの変形が起りやすく、樹脂粉末と結合していない遊離の顔料が多く残存する問題がありました。本ボンデッド法では粉体塗料樹脂とアルミフレーク顔料の結合力に着目し、結合剤を使用することにより接着力という強い結合力でボンデッドを行った従来にない方法です。

## 三菱重工業株式会社

代表者名 : 新製品 宇宙部 部長 長島 堤  
住所 : 〒652-8585 神戸市兵庫区和田岬町 1-1-1

TEL 078-672-3800 FAX 078-672-2815  
URL <http://www.mhi.co.jp>

### 【会社プロフィール】

モノづくりの情熱が生んだ700種以上の製品群。マーケティングの発想から、コア技術をインテグレートして商品化に結びつけるとともに、単なる従来型のモノづくりに留まらずその上流・下流へ、お客様の幅広いニーズに応じて事業範囲を拡げて参ります。私どもは、「世界の三菱重工」というビジョンのもとで、技術とモノづくりにこだわり、世界に貢献する会社でありたい、またそこに当社の存在意義があると考えます。

### 【事業紹介】

1973年国産初の多関節型油圧駆動式塗装ロボットを開発、発売以来、1985年世界初の多関節型電動駆動式塗装ロボット、更に世界初の簡単操作小型塗装ロボット、世界初の水平多関節小型塗装ロボット等を開発・発売する等、常にお客様のご要望に答え、塗装ロボットをリードし、歴史を作ってきました。又、塗装ロボットを「塗装ガン搬送ロボット」から「塗装知能を持ったロボット」に変えた、新型 MRP-5000 DIO の開発・発売等、より使い易く、お客様のご負担を軽減する塗装ロボットの提供を続けます。

### 【製品名】

MRP-5000 シリーズ Dio

### ■特長

塗装知能を持ったロボット  
塗装ノウハウを生かした教示支援システムで塗装品質をスピーディに作り込み

- \* 塗装軌跡自動生成・塗装条件自動設定機能搭載  
被塗物の形状や塗装機器の特性等の情報を入力すると目標膜厚や塗装機器の制御条を生成し、ロボットのプログラムを作成します。塗装機器とロボットを融合した稼働支援システムで稼働前・稼働中の確認・調整を自動化
- \* 塗装制御機能機器のロボスト化  
塗料流量制御の高精度化と塗装条件の環境変化対応により、外乱に強い塗装システムを構築出来ます。
- \* 塗装機器とロボットの一体化  
回転静電ガン制御機能を搭載、制御用エアパネルや静電コントローラをロボット制御装置に内蔵するので、パフォーマンスの高いシステムを組む事が出来ます。



## 村上工業株式会社

代表者名 : 社長 村上 文宏 TEL 03-3557-0991 FAX 03-3557-1774  
住所 : 〒176-0012 東京都練馬区豊玉北 6-3-3

### 【会社プロフィール】

1982年設立。塗装設備提案・設計・製作管理等のトータルエンジニアリング会社として活動しております。

#### ◆方針

少数精鋭主義で前処理薬品、塗料、機器等のメーカーより最新情報を得て、常に最先端設備をご提案・ご提供いたします。

### 【事業紹介】

日本国内はもとより、中国においても100%独資会社（無錫宏展機械製造有限公司）を設立し、日本人技術者を駐在させ（2名）40人体制で中国塗装設備製造メーカーとして営業しております。

### 【製品名】

省エネ対応および生産効率向上システムの提案を行っております

#### 塗装設備全般

- ・自動搬送装置
- ・前処理装置
- ・塗装システム
- ・乾燥装置システム等の設備全般

#### 開発商品名

- ・水性塗料塗装ブースシステム（特許）
- ・タクト搬送式塗装焼付炉（特許）
- ・自動車車体塗装用粉体塗装ブース（特許）
- ・水性塗料多色対応回収システム（特許）
- ・静電粉体塗装ブースシステム（特許）
- ・水性塗料用ホットスプレーガン（申請中）

#### 設備付帯機器

- ・乾燥炉ヤニ取り装置（ヤニエリミナー）
- ・ブーススラッジ回収装置

## 株式会社明治機械製作所

代表者名 : 社長 吉田 君敏 TEL 06-6309-1222 FAX 06-6308-7047  
住所 : 〒532-0027 大阪府大阪市淀川区田川 2-3-14 URL http://www.meijiir.co.jp

### 【会社プロフィール】

創業： 1924年1月6日

理念： 自主創造（顧客第一）

開発一貫（人材・製品・事業・組織・制度）

使命： 当社は、空気圧縮機・塗装機器・塗装設備などのエアを基礎とする豊かな経験と蓄積された頭脳・技術力を結集し、産業と生活・社会に貢献するエアシステムを開発し続ける。

開発： LCC（Life Cycle Cost：生涯コスト）に着目し、ランニングコスト低減を重視した製品作りをめざします。

### 【事業紹介】

創業以来80年、無限のエネルギー源であるエアと取り組んでまいりました。いかにすれば高効率、省エネルギーにつながるのかを追い続け大きな成果を上げています。エア技術分野のパイオニアとして独自の技術を開発し、「エアメーション」つまりエアと技術の融合を合言葉にLCC（生涯コスト）を追求した製品づくりで社会に貢献します。

### 【製品名】

F I N E R シリーズ

#### ■特長

- 1) 軽量化（-30%）で負担軽減
  - 2) 低空気消費量（-30%）
  - 3) 高塗着効率25%塗料削減
  - 4) 低騒音化（-5%）
  - 5) 高微粒化（15%UP）
  - 6) 高バランスで操作性向上
- トータルエネルギー・VOCの低減で環境保全に貢献（比較数字は全て弊社従来品との比較）

#### ■導入により期待されるメリット

（導入実績…台・円）

- 1) 低圧で飛散が少なく塗着効率向上により塗料コストが低減できます。
- 2) 低騒音、軽量かつ高バランスで作業環境、操作性がよく作業者の負担を軽減し塗装不良が発生しにくくなります。
- 3) ガンスタンドにより重要部品を保護し損傷を防止します。

## ランズバーグ・インダストリー株式会社

代表者名 : 社長 木下 真生 TEL 045-785-6311 FAX 045-785-6489  
住所 : 〒236-0004 神奈川県横浜市金沢区福浦 1-15-5 URL http://www.ransburg.co.jp

### 【会社プロフィール】

1963年創立以来静電塗装の発明者ランズバーグ氏に由来するブランドと社名の下、常に工業塗装の最先端をゆく塗装技術を追及し続けることを使命と考えます。1987年には粉体静電塗装のパイオニアであるゲマ、またアメリカITW社の100%出資となった1989年にはスプレーガンで世界的に有名なデビルビスさらにはポンプのピンクスをグループに加えつつ、今では工業塗装のあらゆる分野に優れた塗装機器および塗装システムを供給しています。

### 【事業紹介】

21世紀を目前に業界でいち早く環境問題に対するソリューションを打ち出し、VOC-LESSの水系静電塗装システム“AquaBlock”、より簡単に水系塗装を実現する間接帯電方式“AquaRing”などこの分野で常にリードしつつ、VOCの全く出ない粉体静電塗装の分野でもゲマの“Opti シリーズ”やハンドガンタイプの“OptiFlex シリーズ”、また“ダイヤモンドブース”など常に革新的な技術製品を追求しています。

### 【製品名】

A q u a R i n g / アクアリング

#### ■特長

間接帯電方式のエア霧化型静電塗装装置“AquaRing”は、既設の溶剤塗装設備をそのまま利用しつつ塗装機ヘッドの更新だけで水系静電塗装を実現する設備投資的に安価な新型塗装機です。塗着効率や外部電極の汚れといった間接帯電方式の弱点を克服し、被塗物形状によっては直接帯電方式と比べてもほぼ同等のテスト結果が得られ、エア霧化方式と相まって汎用性の高い塗装機と言えます。

#### ■導入により期待されるメリット

大規模に設備投資することなく環境対応型の水系塗料への移行が、非常にスムーズにしかも安価に行えます。継手など塗料通路の水系対応が必要（既に対応されたラインでは不要）となりますが、基本的には塗装機ヘッドの更新のみで、これ以外の新たな設備追加は一切不要です。色替えも溶剤塗料と同等に行え、しかも水系/溶剤兼用タイプでは水系のみならず必要に応じ溶剤塗装に切替えることも容易です。

## 菱和産業株式会社

代表者名 : 榎 固 TEL 048-223-4622 FAX 048-223-6042  
住所 : 〒332-0003 埼玉県川口市東領家 3-14-6 URL

### 【会社プロフィール】

当社は1970年創業以来、一貫して技術者による塗装ラインの営業として、前処理から塗装設備に至る顧客の要望に対応してきました。「環境にやさしい」をテーマに技術集団のプライドで、塗装プラントの設計から施工まで—それが菱和のモノづくりの原点です。

### 【事業紹介】

- 1) 自動前処理装置
- 2) 熱風発生装置、熱風乾燥炉
- 3) 自動搬送装置  
ワーク供給装置CMS機構  
（ターンテーブルへの供給コンベアを塗装時に移動させる画期的なシステム）
- 4) 塗装装置  
無公害型ジェット洗浄装置付きFB乾式塗装室  
フィルターブース機能+ウォーターブース機能+カスケード塔機能を併せ持った塗装室としてロボット、レシプロ、手吹塗装と幅広く活用できます。その他、中央サクシオン式ウォーターブース、ノーリキュションブースのシリーズがあります。

### 【製品名】

ワン、ツーシステム連続塗装装置

#### ■特長

1ブースと1台のロボットで下塗り、上塗りを同一ラインで同時に行うことのできる2コート2ベーク方式であり、焼付乾燥炉も下塗り、上塗り共、一体化したトータルシステムとしての装置です。

#### ■メリット

省力化・省スペース・省エネ  
設備費の低減  
ランニングコストの大幅な削減

## ロックペイント株式会社

代表者名 : 社長 辻 信一郎  
住所 : 〒136-0076 東京都江東区南砂 2-37-2

TEL 03-5690-0111 FAX 03-5690-7000  
URL <http://www.rockpaint.co.jp/>

### 【会社プロフィール】

1931年に故 辻巖が個人でラッカー性塗料の製造を開始。1952年に株式会社に改組。創業以来70余年に渡り「高品質の塗料を適正価格で提供する」をモットーにたゆみない技術開発と、着実な営業努力を積重ね、常に無借金体制を維持し堅実で安定した経営を行ってきました。環境対応型塗料など常に時代を先取りした製品開発を積極的に推し進めるとともに、ソフト面やデリバリーの強化などのユーザーサービスにも力を注いでいます。

### 【事業紹介】

当社は「車両用塗料」「建築用塗料」「工業用塗料」「家庭用塗料」の4本柱を中心に市場の動向と需要に合致した製品開発を積極的に推し進めています。会社の発展とともに地球環境問題の重要性も増すなか、今後も“人と環境にやさしい塗料づくり”を目指し、ハード、ソフトの両面から一層の充実を図り、色彩提供産業の一翼を担う企業としてその役割と社会への貢献を果たしていきたいと考えています。

### 【製品名】

「タフロック」(粉体塗料)

#### ■特長

塗装の低公害化、合理化、省力化及び省資源対策など産業業界における塗装に対する要求は益々厳しくなっております。「タフロック」は当社が低公害塗料開発の一環として研究を進めてきた粉体塗料で、以下の特長を有します。

- 1) 無溶剤でVOCを含まない
- 2) 塗膜性能の向上
- 3) ロスが少ない(回収再利用ができる)
- 4) 塗装の省力化が出来る
- 5) 安全、衛生に優れる  
(ホルムアルデヒドの放散がない)

## 株式会社オサメ工業

代表者名 : 社長 多田 洋一  
住所 : 〒236-0002 横浜市金沢区鳥浜町 15-13

TEL 045-776-6411 FAX 045-774-4851  
URL <http://www.osame.co.jp>

### 【会社プロフィール】

OSAMEは、昭和22年に塗装工程の近代化を図る設備メーカーとして業務を開始し、同40年に塗装プラント搬送装置および専用自動機のメーカーとして「株式会社オサメ工業」を設立。以来、40年以上にわたり着実に実績を積み重ね、「塗装と搬送」の名門企業として不動の地位を築いてきました。

### 【事業紹介】

国内外を問わず塗装プラント、搬送設備、自動機などコンサルティングから工場レイアウト、設計施工、メンテナンスまで幅広く手がける総合FAエンジニアリング企業。自動車関連メーカーをはじめ、家電、住宅関連機材、オフィス関連機材、農機具、食品、クリーニング工場など、多方面にわたりニーズに合致した最適なシステムを提供しています。

### 【製品名】

HSブース  
<High separate booth>

#### ■特長

##### ①前面開放型

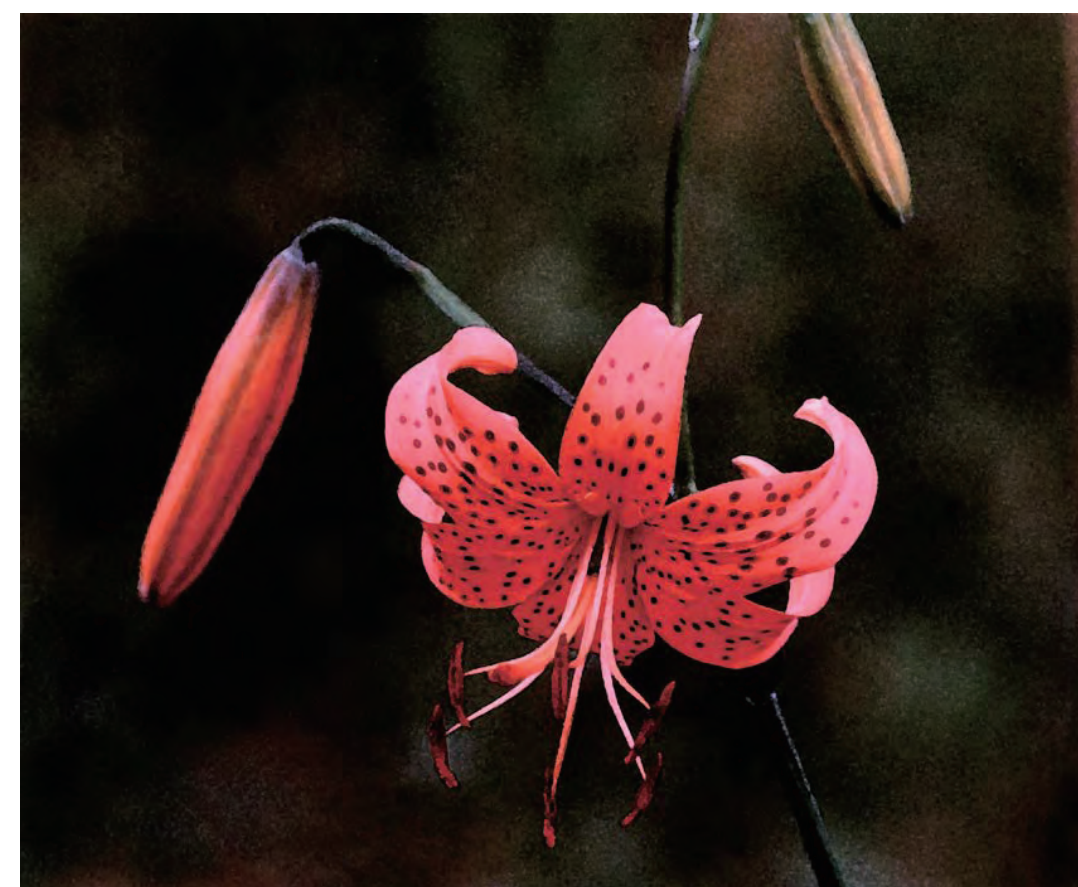
塗料ミストは、エアーカーテンによって水中に叩き落され、ファンの吸引力とミスト捕集機構によって気泡とともに水中を通過している間に塗料ミストの99%が捕集されます。エリミネーター、ジャマ板、ファンを通過した後、さらにその一部はエアーカーテン用エアートとして塗装室を循環し、余剰エアのみ室外へ排出します。

##### ②セミクローズド型

開放型の機能に加え、エア総排気量を2/5に削減します。

## CEMA年表

20周年から30周年まで



### <甘利祐三会長の式辞より抜粋 ~ 20周年記念式典に於いて>

私達の日本塗装機械工業会が設立されて今年がちょうど二十周年、成人式を迎えるということで、ご夫人ご家族同伴で楽しくやろうと、この様なユニークな祝賀パーティーが開催される運びとなりました。

今日は、ご大勢のご来賓にご多用中を枉げてご光臨の栄を賜りました。当工業会にとりましては歴史に残るエポックであり、私共にとりまして無上の光栄に存じます。謹んで心から厚くお礼を申し上げます。

さて、青年が成人式を迎えた時、社会に向かって夫々「青春のメッセージ」を発信し、自らに誓いを立てますように、私達、CEMAとしてもこの節目に何等かの志を明らかにしなければならぬと存じます。先ずその前提と致しまして、私達は自らの本業である塗装機・塗装システムの技術開発と製造販売という事業活動が、「塗装」という人間の生活、社会、産業の全ての分野に無くてはならない、極めて重要な文化的価値と科学的機能を持つ仕事に大きく貢献しているということに、誇りと自覚を持つべきではないかと思えます。

更に、市場が真に求めているものは、塗料という縦糸と塗装機械・塗装設備という横糸が絶妙に織り出す「優れた塗膜」という織物であって、その優れた塗膜を生成

する「塗装技術」の向上とその普及の役割こそが、私達CEMAが目指す活動の目的でなければならぬと存じます。CEMA会員は、夫々が持っている固有の「塗装技術」に誇りを持つと同時に、CEMAへの参画と交流を通じて、塗料業界、塗装業界、そして更に広く塗装に依存している全ての産業社会に向けて、塗装技術の向上の実態とその活用の有効性を訴えて参りたいと存じます。

塗装技術の課題となっている、塗着効率向上の問題、地球環境保全の問題等もろもろの課題解決について、逃げることなく果敢に挑戦する決意をしたいと存じます。又、経営上の課題である世界的な構造変革に伴う国際化、情報化等についても、全てをビジネスチャンスととらえて、戦略的な発想に転換致したいと存じます。

大変生意気なことを申しましたが、私達CEMAのメンバーが未だ脱皮出来ずに沈滞している「古い体質」を捨て切って、CEMAへの参画と交流を続けて頂けば、必ずや達成可能な道程ではないかと確信致します。孰れ二十一世紀を迎えれば、そこには新世紀の明るい展望が開けるものと信じて、今日只今、テイク・オフしたいと存じます。



榎谷課長 甘利会長 増田常務理事



1996年は、CEMA設立20周年と言う節目の年に当り、「成人CEMA」を祝うと共に、21世紀へのテイクオフと位置付けし、年次総会・記念パーティーの開催と記念誌を編集発刊し、年度末には「技術シンポジウム」を開催した。

**第20回記念年次総会**

平成8年6月6日(木)、午後1時30分より都ホテル東京「明日香の間」で会員会社82名と言う多数の出席のもと、第20回記念年次総会が開催された。甘利会長は、議案の審議に先立って、『当工業会が成人式を迎えたことを機会に、工業会のあるべき姿の表現として、会員の総意によるビジョンづくりに取り組み、工業会の理念と目標を内外にアピールすること』を宣言した。議案審議では

- ① 塗装のカギを握るCEMAを内外にアピール
  - ② 中期ビジョンおよび中期事業計画の策定
  - ③ 関係団体との協業、海外諸団体との交流の促進
- と言う今年度3大事業運営方針を満場一致で採択した。

また、役員改選について、新年度として20周年記念行事の企画推進を全うするため、全員の重任が満場一致で承認され、CEMAの積極的な運営姿勢を明確な形で表明し、午後3時閉会した。

**設立20周年記念パーティー開催**

第20回記念年次総会終了後、午後4時30分より、都ホテル東京「醍醐の間」で設立20周年記念パーティーが開催され、ご来賓、CEMA会員、OB、会員のご令室様、報道関連を含め150名と言う多数の出席となった。

記念パーティーは女優 一谷 伸江の司会で進化した。甘利会長は、式辞でCEMAは「重要な文化的価値と科

学機能を持つ仕事に大きく貢献しているということに、誇りと自覚を持つべきではないだろうか。更に、市場が真に求めているものは、塗料という縦糸と塗装機械・塗装設備という横糸が絶妙に織り出す「優れた塗膜」という織物であって、その優れた塗膜を生成する「塗装技術」の向上とその普及こそが私達CEMAが目指す活動の目的でなければならない」と決意を述べ、通産省 機械情報産業局(現 経産省) 榎谷栄吾課長(補)より来賓祝辞を頂き、(社)日本塗料工業会 増田利平常務理事の乾杯で開宴した。

パーティー会場は、ご夫人同伴でまことに華やかなムードにつつまれ、出席者は1961年北上夜曲を発表し大ヒットした「和田弘とマヒナスターズ」(結成40周年記念公演)のムード歌謡とハワイアン演奏で約1時間余りのディナーショーを楽しんだ。最後に、全員で「上を向いて歩こう」を合唱し、散会した(写真で見る20周年 次ページをご覧ください)。

甘利会長をはじめ、理事会のリーダーシップと支援の下で、菅原運営企画委員長(当時)を中心に企画委員、関係各位のご協力で、20周年記念パーティーは大成功であった。堅苦しい形式的な式典を簡略化し、ご出席の方々に心から喜び楽しんで頂き、21世紀に向けテイクオフできるよう、未来を見据えた清新な気概で取組んだ記念行事でした。

自画自賛でなく、その後の報道各社の論調(別載)に見る通り、高い外部評価を頂き、「CEMAの存在感」と「志」を内外に発信することができました。



甘利会長、岩田・松尾両副会長、立礼でお客様のお出迎え



パーティー会場と司会役の女優・一谷 伸江



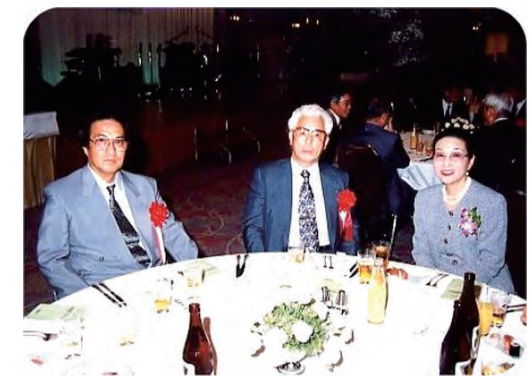
「和田弘とマヒナスターズ」のムード歌謡とハワイアンの演奏



ディナーショーでマヒナスターズの演奏に聞き入る出席者の皆様



松尾副会長ご夫妻



ご来賓の関西工塗連 細川会長と工塗連 大村会長ご夫妻



岩田副会長ご夫妻



マヒナスターズのバックミュージックで坂本九の「上を向いて歩こう」を出席者全員で合唱、CEMAの発展を誓った(左から菅原運営企画委員長ご夫妻、増田理事)



塗装技術(抜粋) 1996年7月号

6月6日、20周年記念パーティーが150名という多数の参加者で盛大に行われました。この150名の大半が、発足時から今日の工業会の発展に何らかの形で苦勞を共にし、力を尽くしてきた人々たちであって、このことに甘利祐三会長の20周年に託する深い感謝の気持ちと感懐をストレートに読み取ることができたのです。素晴らしいパーティーとして、心に強い印象を残しました。

工業会活性化の柱として、情報活動と並行して技術活動が挙げられますが、これも日本塗料工業会との連携に深く意をそそぐことで、同工業会の友好的な協力を得て、時宜にかなうテーマをもって、工業会の存在を世にアピールする刊行物の出版に注力して多大の成果を上げています。側面から、今後の工業会運営の貴重な糧として、関係者の賛意を結集した中期ビジョンを作成、内外に発表する。同時に、中期事業運営計画の骨子、枠組みまで作り上げる。といった工業会の積極的な態度は特に賞賛に値する。

工業会は記念行事の柱として記念誌の編纂と刊行を企画... 歴史の検証、技術の歩み、トップの未来展望、... の各テーマで、実に多数にのぼる執筆者の寄稿があり、... 盛り山な情報と、具体的データとして収録編集して、工業会の温故知新の原典とした。... 中期事業運営計画の骨子、枠組みまで作り上げる、といった工業会の積極的な態度は特に賞賛に値する。

CEMA成人式を祝福

論潮

塗料新報(抜粋) 1996年6月28日

甘利祐三会長は、創立二十周年記念パーティーを、創設十周年記念パーティーを都ホテル東区で百二十余名が出席して盛大に祝った。祝賀パーティーでは、甘利会長が、地球環境保護や、塗装品質と機能向上などの課題解決に、果敢にチャレンジする決意をアピールしたほか、通産省の担当課長が代表で祝辞を述べた。この式典は、豪華な装束を身にまとった会賓でも評判であった。客の気持ちは、このお祝い、来賓や功績者の顔を立ち見せしモノが行きだ。当日は信一、一郎日本塗料協会会長、同会を育てた信一、也元会長、松尾一朗副会長が出席したが、出席はなかった。余計な喜びも、皆で楽しんだ。皆で楽しんだ。皆で楽しんだ。皆で楽しんだ。

塗言録

甘利祐三会長、創立二十周年記念パーティーを都ホテル東区で百二十余名が出席して盛大に祝った。祝賀パーティーでは、甘利会長が、地球環境保護や、塗装品質と機能向上などの課題解決に、果敢にチャレンジする決意をアピールしたほか、通産省の担当課長が代表で祝辞を述べた。この式典は、豪華な装束を身にまとった会賓でも評判であった。客の気持ちは、このお祝い、来賓や功績者の顔を立ち見せしモノが行きだ。当日は信一、一郎日本塗料協会会長、同会を育てた信一、也元会長、松尾一朗副会長が出席したが、出席はなかった。余計な喜びも、皆で楽しんだ。皆で楽しんだ。皆で楽しんだ。皆で楽しんだ。

塗料報知(抜粋) 1996年6月19日

日本塗装機械工業会が設立20周年

日本塗装機械工業会(会長甘利祐三氏)は、今年設立二十周年を迎え、今日午後四時三十分より東京都港区の都ホテル東区で記念式典とパーティーを行う。同工業会は一九七六年八月、正会員十七社、賛助会員一社で発足。現在、塗料メーカーや関連団体も含め正会員三十七社、賛助会員二十一社、特別会員一社の規模に拡大し、技術、市場情報の収集や需要動向の予測、技術出版物の刊行、製品の規格化など幅広い事業を展開してきた。九五年度は、塗料工場に於ける塗料防止、メンテナンスと、塗料工場の公害防止システムを刊行するなど、塗料技術の向上と環境保護活動の重要性をテーマとして取り組むを強化している。また、情報化、国際化という新社会の動きを背景に、塗料技術の高度システム化の研究、海外との情報交流を一層進めていく方針だ。

日刊工業新聞(抜粋) 1996年6月6日



1996年1月新年互礼会 (於:都H)



松尾副会長



岩田副会長 甘利会長

1997年1月新年互礼会 (於:都H)



1996年3月第一回技術シンポジウム (於:インテック大阪)



1996年4月第4回技術講演会 (於:アネスト岩田)

1996年4月製機委員会 (M&E 協議会) 開催

1996年6月第20回記念総会 (於:都H)



1996年10月「塗膜欠陥と対策の手引き」発行 (CEMA 技術部会)



編集会議のひとコマ



1997年4月第5回技術講演会 (於:関西ペイント)



1997年6月第21回年次総会 (於:花木水)



この聲を志として 会長 甘利祐三

1997年10月合同部会 (於:箱根)



1996年

1997年

1996年●第二次橋本内閣、「O157」食中毒、円安・株安・債権安で終了

1997年●消費税率5%に引上げ、携帯通信普及拡大、生保・証券・金融の倒産

日本の情勢

海外の情勢

1996年●欧州で狂牛病、アトランタ五輪開催、クリントン再選、ペルー日本大使館襲撃

1997年●香港が中国に返還、英ダイアナ妃交通事故死、インドネシア煙害が東南アジア全域へ

●1998年1月新年互礼会 (於：名鉄ニューグランドH)



●1999年1月新年互礼会 (於：新横浜グレースH)



●1998年2月 CEMA21世紀ビジョン(案)を理事会に答申  
●1998年3月「工業塗装に係わる環境対応の実態調査報告書」発行 (CEMA・M&E 協議会)  
●1998年4月ペイントショー出展



●1999年5月第2回技術シンポジウム (於：ビッグサイト)



●1999年6月第23回年次総会 (於：名鉄大山H)  
CEMA改革についてのフリーディスカッション



●1998年6月第22回年次総会 (於：名鉄大山H)  
会則改定  
・会長・役員選出方法 (郵送による事前投票制度)  
・事務局独立計画



甘利会長から菅原氏/鈴木氏へ感謝状授与



●1999年10月合同部会 (於：アネスト岩田伊豆保養所)



●1998年11月日本塗料工業会創立50周年式典に参加 (於：帝国H)



●原取蔵氏のタイからの便り

●1999年10月環太平洋技術フォーラム (ソウル) に参加

1998年

1999年

1998年●長野冬季五輪開催、金融ビッグバン始動、参院選自民大敗小沢内閣誕生

1999年●大手銀に公的資金注入、ゴーン日産再建計画、自公連立政権発足、石原都知事誕生

日本の情勢

海外の情勢

1998年●韓国金大中大統領誕生、インド・パキスタンで核実験、ロシア経済危機

1999年●EUでユーロ導入、NATO 軍ユーゴ空爆、トルコ・台湾で大地震

●2000年1月新年互礼会 (於：名鉄ニューグランドH)



●2001年1月新年互礼会 (於：名鉄ニューグランドH)



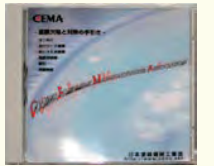
●2000年5月 I S O研修工場見学 (三洋電機吹上工場：M&E 協議会)  
●2000年6月第24回年次総会 (於：新横浜グレースH)



6年に亘り会長職を務められた甘利祐三氏が退任、  
新会長に佐々木治氏が就任  
事務局を独立させ(株)広信社に依頼



●2001年4月CD-ROM「塗膜欠陥と対策の手引き」を発行 (CEMA 技術部会)



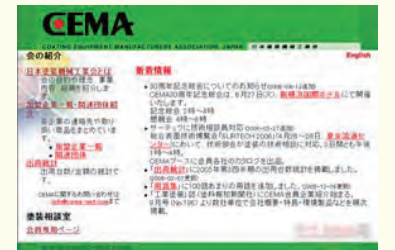
●2001年5月第3回技術シンポジウム開催 (於：日本ペイント東京センタービル)

「ISO14001 認証・取得のための塗装ハンドブック」を発行 (CEMA・日本塗料工業会 M&E 協議会 編集発行)



●2001年6月第25回年次総会 (於：新横浜グレースH)

●2001年8月CEMA ホームページ開設



●「新しい塗装実務ハンドブック入門編」を発行 (CEMA 技術部会)



●2000年8月三団体塗装懇談会を開始、CEMA、日本塗装技術協会、日本工業塗装協同組合連合会の三者で塗装の抱える問題を協議

●2000年10月合同部会 (於：アネスト岩田伊豆保養所)

●三団体懇談会定例化

●2001年10月合同部会 (於：アネスト岩田伊豆保養所)

2000年

2001年

2000年●小沢首相病に倒れ森政権誕生、三宅島噴火、事業規模11兆円の新経済対策

2001年●小沢内閣発足、政府戦後初のデフレ認定、雅子様女児出産、国内初の狂牛病確認

日本の情勢

海外の情勢

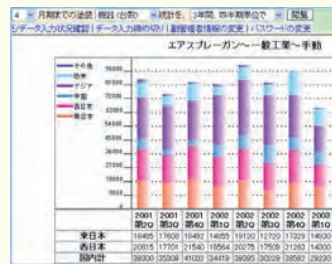
2000年●ロシア、プーチン政権誕生、シドニー五輪開催(日本女子活躍)、米大統領ブッシュ氏に確定

2001年●インド西部に大地震、米世界貿易センタービルにテロ、米エンロン破綻、中国WTOに正式加盟

- 2002年1月新年互礼会  
(於：名鉄ニューグランドH)



- ホームページの活用  
出荷統計をホームページにて投票開始  
英語ページの開設と海外塗装関連へのリンク設定



- 2002年6月第26回年次総会  
(於：新横浜国際H)  
役員改選



平成14年6月7日 日本塗装機械工業会 第26回年次総会 於 新横浜国際ホテル

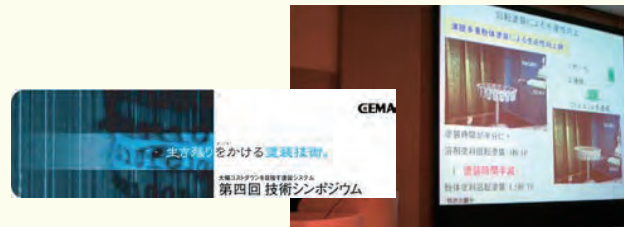
- 2002年11月合同部会 (於：名鉄NGH 内海温泉)
- 技術講演「水性塗料」

- 2003年1月新年互礼会  
(於：名鉄ニューグランドH)



- 2003年6月第27回年次総会  
(於：新横浜国際H)  
「CEMAの未来を語る」ホームページの活用  
グローバル化に対応する国際部を発足

- 2003年6月第4回技術シンポジウム開催



- CEMAと日本工業塗装協同組合連合会による  
「超臨界酸化処理装置」見学 (栗田工業)

- 2003年11月合同部会 (於：京都「きよみず」)  
技術講演「粉体塗料」



2002年

2003年

2002年●初の日朝首脳会談、サッカーW杯日韓共同開催、銀行合併で「UFJ」「みずほ」誕生

2003年●個人情報保護法成立、衆院選で民主党躍進、10年ぶりの冷夏、オレオレ詐欺流行

日本の情勢

海外の情勢

2002年●アフガニスタンでカイザル大統領誕生、バリ島で爆弾テロ、韓国大統領選でノムヒョン氏当選

2003年●米・英軍とイラク開戦、スペースシャトル「コロンビア」空中分解、新型肺炎(SARS)が世界で猛威

- 2004年1月新年互礼会  
(於：名鉄ニューグランドH)

- 2004年2月VOCシンポジウム

- 2004年6月第28回年次総会  
(於：新横浜国際H)



- 4年に亘り会長職を勤められた佐々木栄治氏が退任され、新会長に小林茂氏が就任された。
- 役員改選 (副会長3人制)
- 事務局能力を強化するため専務理事職を設置した。
- CEMA会則を改定
- 2004年11月合同部会 (於：京都「きよみず」)



- 2004年11月第5回技術シンポジウム開催  
(於：日本ペイント東京センタービル)



2004年

2004年●新潟中越地震・新幹線脱線、参院選で民主党躍進、北朝鮮拉致被害者帰国

日本の情勢

海外の情勢

2004年●スペインで列車・駅の同時爆破テロ、スマトラ沖地震で大津波、アテネ五輪開催

2005年●原油価格高騰、「カトリーナ」米南部に大被害、中国各地で反日暴動、ロンドン・バリ島などで大規模テロ

- 2005年1月新年互礼会  
(於：名鉄ニューグランドH)



- 2005年4月総合表面技術博覧会 SURTECH 協賛

- 2005年6月第29回年次総会  
(於：名鉄ニューグランドH)



- 2005年7月第6回技術シンポジウム  
(於：日本ペイント東京センタービル)



- 東京都環境局のWGに参画

- 2005年7月合同部会  
(於：横浜メルパルク)
- 出荷統計をホームページにて公表
- 「塗装用語」「FAQ」の充実
- 2005年11月合同部会 (於：日本ペーパーライジング清里保養所)



2005年

2005年●JR西日本尼崎事故、愛知万博「愛・地球博」開催、衆院選自民党大勝、景気回復鮮明

日本の情勢

海外の情勢

日本塗装機械工業会は、1976年8月24日 日本国内の塗装機械、塗装設備メーカーの代表者が発起人となって、

1. 塗装機械、塗装設備の普及と向上
2. 塗装業界の健全な発展に寄与する

ことを目的に設立されました。

当工業会は、会員相互の情報交流によって信頼関係を深め、特に技術面の切磋琢磨と需要動向に関する調査研究を通じて、未来が展望できるような質的向上を目指す企業集団、つまり共生の途を志向し、社会に貢献する工業会として、幅広い活動を展開しています。

また、内外に開かれた組織活動を展開し、会員の総意に基づく全員参加活動を運営の基本理念としています。

目的と事業

当工業会は、業界の健全な発展に努めることによって、我が国および世界の産業及び経済の発展に寄与するために、次のような事業を展開します。

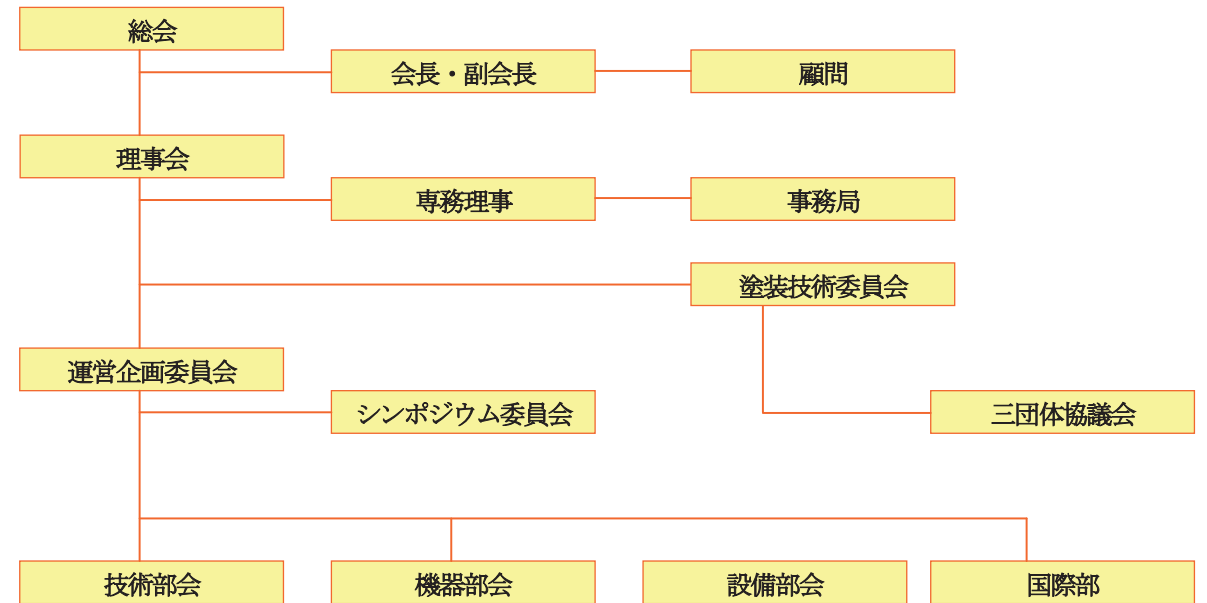
1. 公正な自由競争の原則と同業共生の理念の下に、相互の信頼関係を深め、情報の共有と技術の研究調査活動を行う。
2. 会員の事業に必要な国内外の技術、市場情報の収集と需要動向の予測、生産、販売に関する統計資料を整備する。
3. 塗装機械、塗装設備および塗装技術に関する技術出版物を刊行する。
4. 製品の国内規格化に取り組み、さらに国際規格化を推進する。
5. 業界関連団体との技術交流を進める。
6. 業界に関連する法令への対応について広報を行う。
7. その他、本会の目的を達成するために必要な事業。

組織活動

当工業会は、会長を中心に理事会で毎年度の事業運営方針、事業計画を策定し、それに基づいて以下の下部組織による実務活動を展開しています。

1. 技術部会  
塗装機械、塗装設備、塗装技術に関する技術研究、調査活動を主な役割とし、製品の国内規格化の推進および国際規格の調査活動等を行っています。
2. 設備部会  
塗装設備に関する技術の研究調査をはじめ、需要動向の予測調査、生産出荷実績等の統計データ整備など、マーケットに関する諸活動を行っています。
3. 機器部会  
塗装機械に関する生産・出荷実績、需要動向・予測調査等の統計データを整備し、マーケティングに有益な活動を展開しています。
4. 運営企画委員会  
理事会の諮問機関として、当工業会の運営活動の活性化に関する企画立案と各部門間の意見調整等を主な役割として、理事会の運営を支援しています。
5. シンポジウム委員会  
CEMA情報発信の根幹として、テーマの選定、技術シンポジウムの実施を行っています。
6. 国際部  
塗装技術のグローバル展開の諸活動を行っています。

CEMA組織図



理事リスト

役職名	氏名	会社名
会長	小林 茂	ノードソン(株)
副会長	甘利 昌彦	旭サナック(株)
副会長	里見 多一	日本パーカライジング(株)
副会長	菅原 一雄	アネスト岩田(株)
理事(顧問)	佐々木 栄治	タクボエンジニアリング(株)
理事	上野山 雅啓	日本ペイントプラント・エンジニアリング(株)
理事	木下 真生	ランズバーグ・インダストリー(株)
理事	多田 洋一	(株)ヲサメ工業
理事	土田 紀八	昭和塗装機(株)
理事	吉田 君敏	(株)明治機械製作所
監事	伊藤 潤	(株)カンペプラントエンジニアリング
専務理事	平野 克己	事務局

編集後記

- 本来なら30年の歴史を記念誌としてまとめるところですが、このたびは20周年記念誌の「温故知新の精神」を継承して、その後の10年の歴史をまとめて30周年記念誌としました。
- 「花」の写真は「歴史の回顧」として、CEMA設立と基礎づくりにご尽力されました小川馨氏(故人：元日本ランズバーグ(株)取締役社長)の作品(デジタル処理をしました)を載せました。
- 表紙などのデザインは、時代は移り人は変われど、CEMAの技術とそこに集う人の連帯と団結を現代風にイメージしたものです。
- 短期間に5名の編集委員の下で、デザインも含め資料の収集から編集に至るまで、全くの素人による手作りの作品です。決して内容に満足のいくものではありませんが、大方のご批評を頂ければ幸いです。

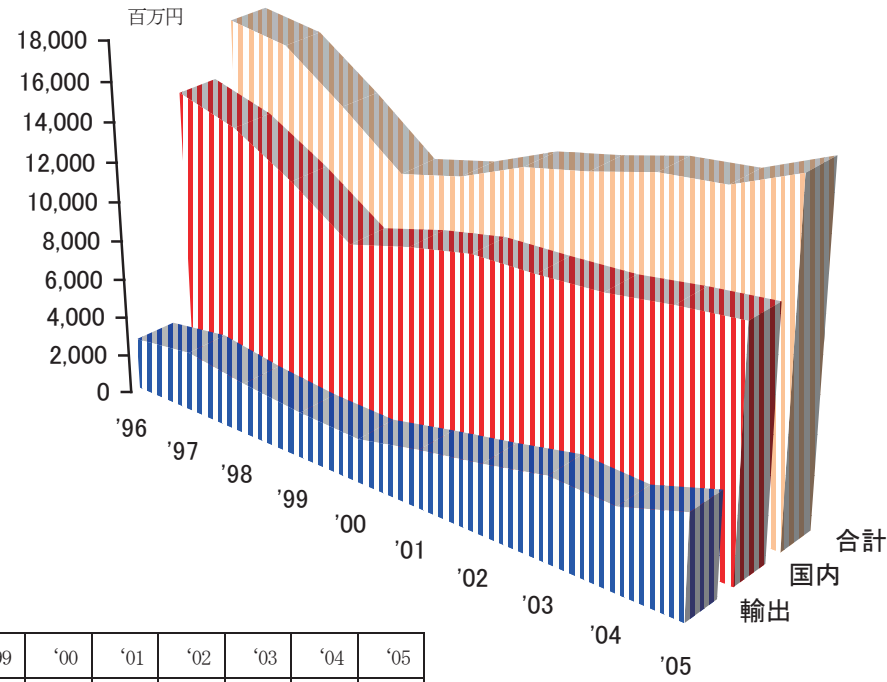
日本塗装機械工業会事務局  
事務局長 紺野 利夫

〒103-0024 東京都中央区日本橋小舟町3-4  
TEL 03-5695-8240  
FAX 03-3663-6009  
E-mail cec46740@hkg.odn.ne.jp  
URL http://www.cema-net.com

# 出荷統計

## 出荷金額 (塗装機器/塗装設備)

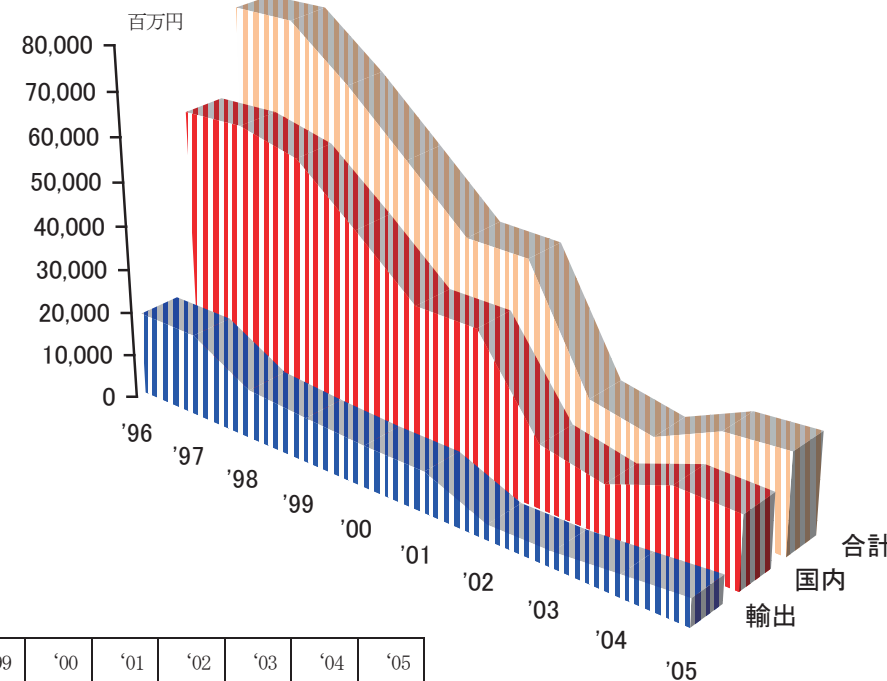
塗装機器出荷金額



<参考>投票社数

'96	'97	'98	'99	'00	'01	'02	'03	'04	'05
11	11	11	11	11	11	10	9	9	9

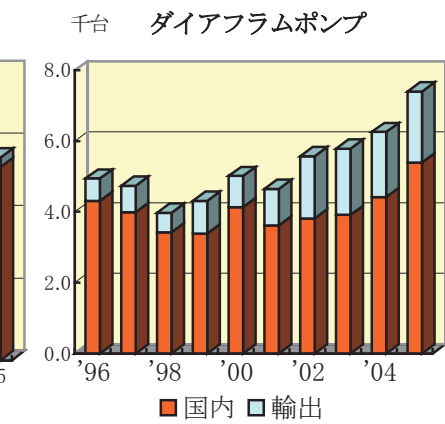
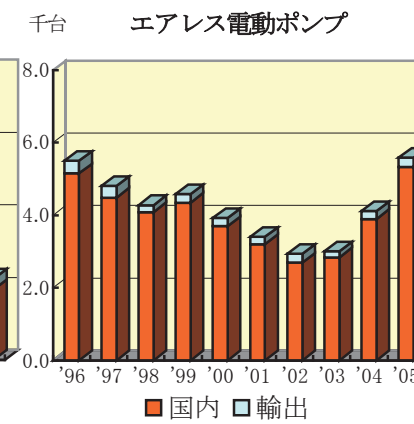
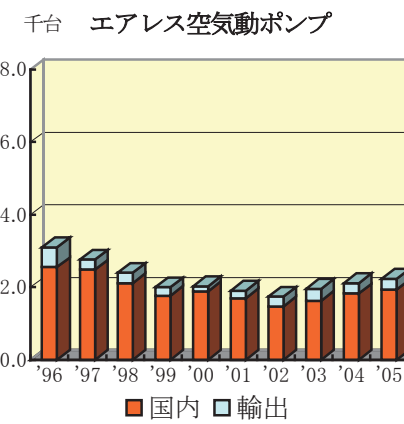
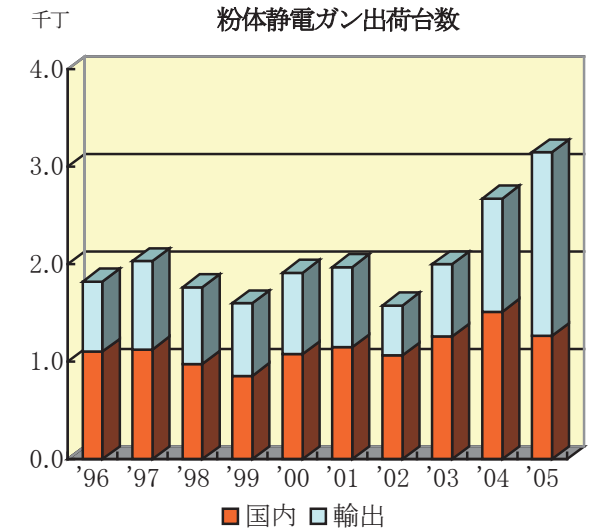
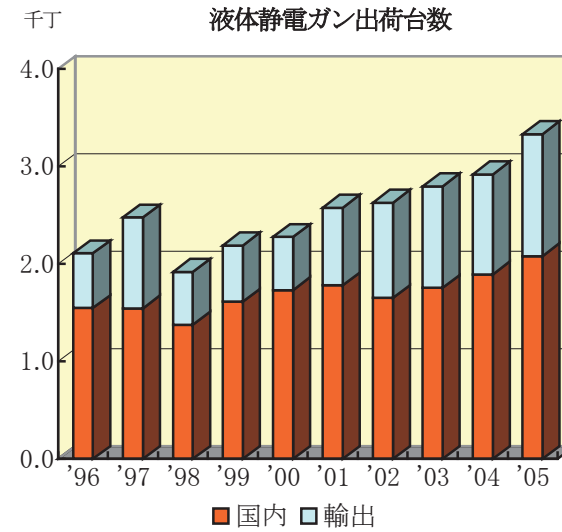
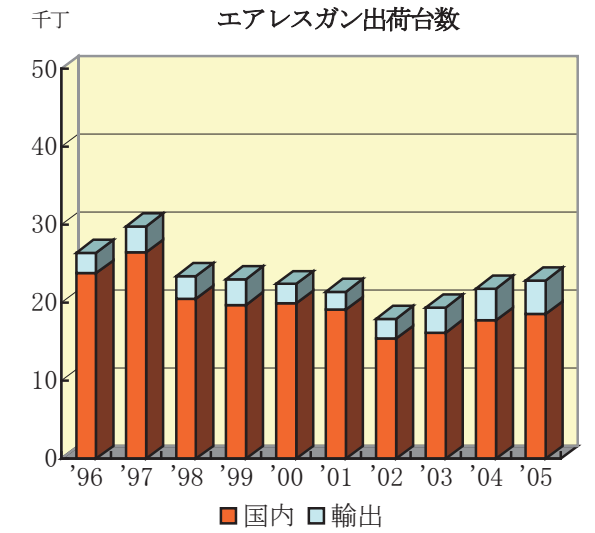
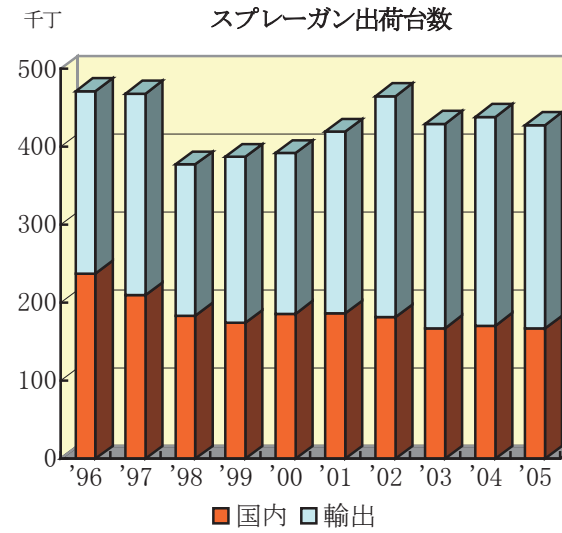
塗装設備出荷金額



<参考>投票社数

'96	'97	'98	'99	'00	'01	'02	'03	'04	'05
25	25	24	23	23	17	17	8	10	10

## 塗装機器出荷台数





**CEMA**  
日本塗装機械工業会

